

# 令和3年度第1回伊勢志摩地域高等学校活性化推進協議会

## 配 付 資 料

- 令和3年度 伊勢志摩地域高等学校活性化推進協議会委員 名簿・・・・・・・・・・ P 1
- 伊勢志摩地域高等学校活性化推進協議会設置要綱・・・・・・・・・・ P 2
- 【資料1】 令和2年度第2回伊勢志摩地域高等学校活性化推進協議会の概要・・ P 3
- 【資料2】 これからの県立高校のあり方について・・・・・・・・・・ P 6
  - 第1回教育改革推進会議（5/20）資料（一部抜粋）と概要等
- 【資料3】 今後の県立高校活性化の基本となる考え方について・・・・・・・・ P 19
- 【資料4】 小規模校における活性化の取組・・・・・・・・・・ P 24
- 【資料5】 全国の全日制第1学年学級数別の学級規模の状況等・・・・・・・・ P 35
  - 第2回教育改革推進会議（7/20）資料（一部抜粋）と概要等
- 【資料6】 伊勢志摩地域 中学校卒業生数の推移と予測（含社会増）・・・・・・・・ P 42
- 【資料7】 伊勢志摩地域県立高等学校 学級数の推移・・・・・・・・・・ P 43
- 【資料8】 伊勢志摩地域の高校（全日制）の入学定員と入学者数・欠員数の推移 P 44
- 【資料9】 市町別の中学校卒業生進学先の推移・・・・・・・・・・ P 45
- 【資料10】 令和3年度の協議について・・・・・・・・・・ P 46
- 【資料11】 令和10年度を見すえた伊勢志摩地域の県立高校の配置について・ P 48
- 【資料12】 伊勢志摩地域の高等学校等（R3年度）学科・コース等について・・ P 49
- 【資料13】 令和3年度の県立高等学校のPR活動について・・・・・・・・・・ P 50
- 【資料14】 令和3年度配付用チラシ案・・・・・・・・・・ P 51

## 令和3年度 伊勢志摩地域高等学校活性化推進協議会委員 名簿

No		所属及び名前	出席委員	
1	学識経験者	三重大学 大学院生物資源学研究科 教授 坂本 竜彦	○	継続
2	地域有識者	亀谷内科胃腸科 院長 亀谷 章	○	継続
3		鳥羽商工会議所 専務理事 清水 清嗣	○	継続
4		志摩市商工会 事務局長 石野 雅彦	○	継続
5		度会町商工会 事務局長 富内 伊佐雄	○	新
6		伊勢市教育委員会 教育長 北村 陽	○	継続
7	教育長	鳥羽市教育委員会 教育長 小竹 篤	○	継続
8		志摩市教育委員会 教育長 舟戸 宏一	○	継続
9		度会町教育委員会 教育長 中西 正典	○	継続
10		南伊勢町教育委員会 教育長 片山 嘉人	○	継続
11		県立高等学校長代表	角屋 貴久 (県立南伊勢高等学校)	○
12	小中学校長代表	伊勢市 平本 秀次 (伊勢市立五十鈴中学校)		新
13		鳥羽市 掛橋 敏也 (鳥羽市立加茂中学校)	○	新
14		志摩市 山口 泰弘 (志摩市立東海中学校)		新
15		度会郡 福井 清 (南伊勢町立南島中学校)	○	新
16	小中学校PTA代表	伊勢市PTA連合会 代表 山田 純也 (伊勢市明倫小PTA)	○	継続
17		鳥羽市PTA連合会 代表 今井 進也 (鳥羽市鳥羽東中PTA)	○	新
18		志摩市PTA連合会 代表 山路 浩一 (志摩市磯部中PTA)	○	新
19		度会郡PTA連絡協議会 代表 森井 一晴 (度会郡南勢中PTA)	○	新
20	高等学校PTA代表	南勢地区高等学校PTA連合会代表 山下 晃司 (南伊勢高校度会校舎PTA)	○	新
21	小中学校教員代表	伊勢市 坂口 直矢 (伊勢市立明倫小学校)	○	新
22		鳥羽・志摩地域 里中 洋典 (志摩市立東海小学校)		新
23		度会・南伊勢地域 松田 直樹 (玉城町立玉城中学校)	○	新
24	高等学校教員代表	三橋 哲夫 (県立伊勢工業高等学校)	○	継続

## 伊勢志摩地域高等学校活性化推進協議会設置要綱

### (設 置)

第1条 少子化などの社会の変化が著しい中、伊勢志摩地域における高等学校の特色化、魅力化を図るとともに、生徒にとって魅力ある学習環境を整備するため、伊勢志摩地域高等学校活性化推進協議会（以下、「協議会」という。）を設置する。

### (所掌事項)

第2条 協議会は、次に掲げる事項について具体的に検討し、協議する。

- (1) 今後の伊勢志摩地域全体における県立高等学校の在り方に関すること
- (2) 伊勢志摩地域の県立高等学校活性化の方策に関すること
- (3) 施設・設備に関すること
- (4) その他検討を要すること

### (組 織)

第3条 協議会は、学識経験者、地域有識者、小中学校PTA関係者、高等学校PTA関係者、関係市町教育委員会教育長、小中学校長代表、県立学校長代表、教職員代表等で組織する。

- 2 協議会に、会長、副会長を置く。
- 3 会長及び副会長は、委員の中から互選により決める。
- 4 会長は会務を総理し、副会長は会長を補佐し会長に事故ある時は職務を代行する。
- 5 協議会は、必要に応じて関係者の出席を求め、意見を聞くことができる。

### (調査委員会)

第4条 協議会のもとに、必要に応じて調査委員会を設置する。

- 2 調査委員会は、テーマに応じて会長の指名する関係者で構成する。

### (会 議)

第5条 協議会は、会長が招集し、会長が議事運営する。

- 2 協議会の庶務は県教育委員会事務局において処理する。

### (その他)

第6条 この要綱に定めるもののほか、協議会の運営に関する事項は会長が定める。

### 附 則

この要綱は平成24年 6月28日から施行する。

この要綱は平成29年 8月 1日から施行する。

## 令和 2 年度第 2 回伊勢志摩地域高等学校活性化推進協議会(2 / 1 6)の概要

1 日時 令和 3 年 2 月 16 日(火) 19 時 00 分から 21 時 15 分まで

2 場所 オンライン

### 3 概要

今年度の地域の高校の取組状況や次期「県立高等学校活性化計画」策定に向けた動き等を共有し、今後の中学校卒業生数の減少や当地域を取り巻く県立高校の現状や課題をふまえ、これからの伊勢志摩地域の県立高校のあり方について協議しました。

主な意見は次のとおりです。

#### 《伊勢志摩地域の小規模校のあり方について》

- 地域の小規模校はこの 3 年間活性化に取り組んできたが、地域の中学生がさらに減少していく中では、現実的には限界に近づいている。これからは再編統合の具体的な議論をはじめていくことが必要である。
- 人口減少が急速に進む中で、生徒減に対応して高校の規模を見直すことは大変重要であるが、もっと長いスパンに立って、子どもたちを将来地域に残って活躍する人材に育てる教育も考えていくべきではないか。
- 鳥羽・志摩・度会地域の各小規模校はいずれも定員を満たしていない現状ではあるが、今後 5 年から 10 年の間はまだその役割は残されている。当地域の小規模校の欠員数と地域の私立高校の定員超過はほぼ一致していることから、地域の小規模校の存続を危うくしている要因の一つと考えられ、対応すべき大きな問題である。また、小規模校の再編統合が進めば、この地域の高校の配置が伊勢市に集中してしまうことが想定されるが、果たしてその状況があるべき姿であるか疑問が残る。
- 活性化の取組により小規模校の魅力が向上していることは理解できるが、地元中学から地域の小規模校への進学率が低いまま伸び悩んでいることを考えると、現実的には再編統合を進めていく必要がある。鳥羽高校、志摩高校、水産高校の 3 校再編のアイデアも出たが、鳥羽高校は志摩方面よりも伊勢方面への交通の便が良いため、伊勢市内の高校との再編統合の方が望ましいのではないかと。また、当地域での私立高校における入学者の定員超過等については、もっと問題視すべきである。
- 地域の小規模校は地域の活性化にも貢献しており、地域にはなくてはならない存在である。40 人以下の学級編成や ICT 機器の活用などの工夫をすることによって、小規模校の維持・存続を図ってほしい。その際、部活動の活性化については、国においても地域スポーツクラブへの移行等の方針が検討されていることから、これまでのように問

題視する必要がなくなるのではないか。

- 志摩高校、水産高校は、地元として必要な高校であり、是非とも維持してもらいたい。
- 水産高校では地域の水産業と密着した専門的な学習や全国的なレベルでの資格取得において成果をあげたり、志摩高校でも地域医療と連携した学習を行ったりするなど、地域の中に高校がある意味は大きい。今後の生徒減の予測からは、どこかの学校が再編統合されるのは致し方ないのかもしれないが、40人にこだわらない学級定員とするなどの工夫で小規模校を維持してもらいたい。
- 国の普通科改革でも言われているように、地域の小規模校では、たとえば地域医療と観光分野に特化したカリキュラムや学科をつくり、技術だけでなく地域の活性化に貢献する意欲を育む取組を展開するなど、学科やコースをその地域の特徴やニーズに合うものに変えていくことも必要ではないか。
- 道路事情が改善して広い地域からの通学が可能となったため、現状では伊勢志摩地域全体が一つの通学圏内としてとらえることができる。高校は、次世代を育てる地域の核として重要であり、将来地域に戻って地域を支える人材を育てる場所でもあることから、地域の小規模校だけでなく、伊勢市内の高校においても地域を題材として探究に取り組む学習プログラムを行うことが大切である。
- 現「県立高等学校活性化計画」において、各校で活性化の取組が進んでいるが、小規模校においてはその成果は限定的であり、分校化や校舎制などとしても存続は難しいと考える。高校現場からの視点で考えると、教育の質の確保のためには一定の規模が必要であり、小規模化することによる高校の魅力低下は避けられない。伊勢志摩地域全体を一つの地域として考えたうえで、それぞれの県立高校の魅力を高めることが必要である。さもないと規模の大きな私立高校や他地域への流出が加速することになる。この地域の未来のために責任ある選択をしなければならない。

#### 《伊勢市内の県立高校のあり方について》

- 伊勢工業高校では、これ以上の小規模化には耐えられないと考えている。職員たちも他の専門学科高校との再編等を視野に入れて、伊勢志摩地域全体の専門教育の充実や部活動の活発化を目指した将来の学校像を構想している。
- 専門学科の学びは魅力も高く、地域にとっても必要不可欠なものであり、なくすことができないものである。令和3年度からは伊勢工業高校と宇治山田商業高校も4学級規模となるため、一つの学校として再編していくメリットは十分あると考える。
- 今後の伊勢志摩地域の状況を考えると、高校の再編統合を検討していく時期に差し掛かっていると思われるが、それが単なる数合わせのための再編統合ではなく、もっと大きな視点をもって地域の高校の配置や教育内容を深く考えていくべきである。

## 《その他》

- 令和 10 年度の伊勢志摩地域の県立高校の学級数の予想は 24～26 学級とあるが、単純に現在地域にある 10 校で割ると、1 校あたりは 2.6 学級あまりとなる。このような状況に対し、県教育委員会としてはこの地域の県立高校の今後のあり方についてどのように構想しているのか、その方向性を教えてほしい。  
⇒（政策課）単純に地域全体の学級数を学校別に均等に分配するような高校の配置は考えていない。各校の学びの特色や役割を考慮し、伊勢志摩地域を一つの通学地域と考え、ランドデザインを検討していく方針である。
  - 地域の小規模校をはじめ各県立高校は、子どもたちが希望ある将来を思い描き、一度は地域を離れてもいつかは戻りたいと考えるような、より魅力的な学校づくりを進め、それを地域に発信していく必要がある。
  - 今後の地域の県立高校のあり方を考えるにあたっては、多くの中学生が選択する私立高校にはどのような魅力があるか、その私立高校に対抗するために前期選抜の定員を増やすべきか、専門学科高校で学ぶ内容などを見直すべきなのか等、議論すべきテーマが多くある。
  - 保護者や中学生には伊勢志摩地域すべての学校の特色や魅力等がわかっているわけではないため、多くの学校の説明を聞ける機会を設けるなど、オンラインも活用しながら、積極的に発信してもらいたい。
  - 最近、N高校などの私立広域通信制への進学者が増加している。ICT技術の発達とともに、子どもたちの学びは学校だけでなく自宅等も含め、多様に広がっている。また、高校進学時の中学生にはその高校で何が学べるかという魅力を伝えることも大切であるが、その先にどのような職業につけるかなど、自身の未来をイメージさせることが進路選択において大切である。
  - 地域の小学校でも体験や対話を通じて地元を学び、地域への愛着心を養う教育をしているが、それが高校選択で地元の高校を選ぶことにつながっていない。自分たちが住む地域の魅力はその中では実感しにくく、外部から見ることで実感できるものなのかもしれない。
- ※ 地域の県立高校の魅力を伝えるための「伊勢志摩地域高等学校進学フェスタ」については、新型コロナウイルスの感染状況を考慮に入れながら、地域の児童生徒により効果的に発信できるよう、オンラインの活用も含めた開催やチラシ配付等の方法で、現活性化計画の最終年度である令和 3 年度までは実施する、という方向性が確認されました。

## 【第1回教育改革推進会議（5/20）資料】

## これからの県立高校のあり方について

現行の「県立高校活性化計画」の計画期間が令和3年度で終了することから、令和3年度においては、教育を取り巻く社会情勢の変化等をふまえ、これからの時代を生きていくために必要となる力を育んでいくことのできる県立高等学校のあり方等について「三重県教育改革推進会議」でご審議いただき、次期「県立高等学校活性化計画」を策定していきたいと考えています。

## 1 教育を取り巻く社会情勢の変化

## 【参考】本県における少子化の状況

- 本県の人口は平成19年をピークに減少局面に入っており、国立社会保障・人口問題研究所の推計によると、令和7年には171万人に、令和27年には143万人にまで減少することが見込まれています。
- 県内の中学校卒業生数も年々減少を続けており、平成元年から令和3年を見ると、29,994人から15,777人と約47.4%の減となっています。
- 全日制課程を置く県立高校の設置数については62校から54校へ8校の減少となる一方で、全日制課程を置く県立高校の学級数は485学級から271学級と約44.1%の減、1校あたりの平均学級数は7.82学級から5.02学級に減少しています。

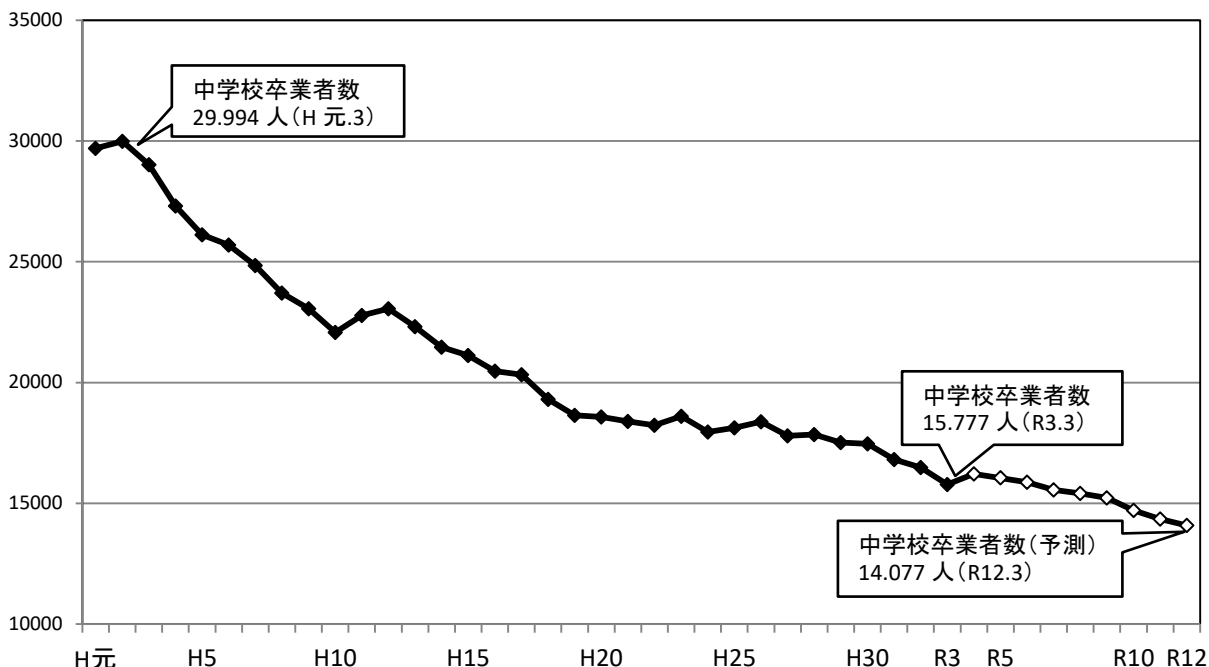
【H1～R3 中学校卒業生数/全日制県立高等学校(含校舎)設置数/全日制県立高等学校(含校舎)学級数】



	H元	H2	H3	H4	H5	H6	H7	H8	H9	H10	H11	H12	H13	H14	H15	H16	H17	H18	H19	H20	H21	H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30	H31	R2	R3
県立高校学級数	485	477	456	452	471	457	438	427	410	422	428	412	394	385	374	370	351	339	337	334	331	337	324	327	324	327	315	315	308	306	293	285	271
県立高校設置数	62	62	62	62	62	62	62	62	62	62	62	62	61	61	61	61	61	61	60	59	57	56	55	55	55	55	55	54	54	54	54	54	54

## 【中学校卒業生数の推移・将来推計】

中学校卒業生数は、令和4年3月に前年度を上回るものの、令和5年3月以降の5年間で1,000人程度減少することが見込まれています。



## 2 これからの時代に必要とされる力について

### (1) 豊かな未来を創っていく力の育成

「三重県教育ビジョン」においては、これからの時代に必要となる力を「豊かな未来を創っていく力」とし、「確かな学力」「豊かな心」、「健やかな身体」を身に付けることで、自分のよさや可能性を認識するとともに、他者に対する理解や思いやり・優しさを育み、それらを基礎として、失敗を恐れずさまざまなことに積極的に挑戦し、他者とつながり、協働しながら困難な課題を乗り越えていく力を育てていく、としています。

【参考】教育ビジョンに込める想い（「三重県教育ビジョン」11～12ページ）

- 1 誰一人取り残さない教育の推進
- 2 子どもたちの豊かな未来を創っていく力の育成
- 3 「オール三重」による教育の推進

### (2) 主体的・対話的で深い学びと個別最適な学び

令和4年度から年次進行で実施されることとなっている高等学校学習指導要領においては、育成をめざす資質・能力について、

- ・「生きて働く『知識・技能』の習得」
- ・「未知の状況にも対応できる『思考力・判断力・表現力等』の育成」
- ・「学びを人生や社会に生かそうとする『学びに向かう力・人間性等』の涵養」



の三つの柱で整理するとともに、生徒一人ひとりに社会で求められる資質・能力を育み、生涯にわたって探究を深める未来の創り手を送り出していくことが重要であるとして、「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善を進めていくことを示しています。

一人ひとりの子どもの能力を最大限に引き出すための ICT 等の活用も含めた多様な学びの提供、地域課題の解決に実践的に取り組む学びなど実社会とつながった学びの推進、生徒一人ひとりの状況に応じた指導と個々の生徒に応じた学習活動の提供などの個別最適な学びの推進などの実現が求められています。

### 3 「県立高等学校みらいのあり方検討委員会」での議論の概要

地域産業界や教育・文化等の分野、県立高等学校OBなどさまざまなバックボーンや経験を持つ方々から、これまでのご自身の経験をふまえて多様な観点・角度から議論することを目的に設置した「県立高等学校みらいのあり方検討委員会」において、これからの時代を生きていく高校生にどのような学びが必要か、そのために高等学校はどのようにあるべきかなどについて、計7回にわたって議論を行いました。

#### 【参考：協議テーマ】

開催日	テーマ
第1回(10月13日)	・新たな時代における本県の高等学校教育のあり方について
第2回(12月1日)	・県立高等学校の課題と協議テーマ ・新たな時代に対応した高等学校教育の推進①
第3回(1月5日)	・新たな時代に対応した高等学校教育の推進② ・全ての高校生を誰一人取り残さない教育環境づくり
第4回(2月4日)	・これからの学びに対応した学科・課程のあり方
第5回(3月15日)	・これからの社会の変化と県立高等学校の学びに対応した社会性・人間性の育成 ・県立高等学校の規模と配置①
第6回(3月26日)	・県立高等学校の規模と配置②
第7回(4月26日)	・協議のまとめ

### 4 県立高等学校生徒を対象としたアンケートの実施

「県立高等学校みらいのあり方検討委員会」では、本県の高校生の現状を把握するため、令和2年度に県立高等学校に入学した生徒（アンケート時に高校1年生）を対象に、高校での学びに対する期待や興味・関心、これから受けたい授業等について、インターネットを活用したアンケートを実施しました。

### 【アンケートの実施概要】

- 調査期間 令和2年12月7日（月）～令和3年1月11日（日）
- 調査対象 学科（普通科、専門学科、総合学科）課程（全日制、定時制、通信制）別に抽出
- 回答者数 3,373名
  - （学科別内訳）普通科、普通科系専門学科 1,695名
  - 職業系専門学科 1,395名
  - 総合学科 283名
  - （課程別内訳）全日制 3,146名
  - 定時制・通信制 227名

### 【参考】アンケート項目

質問番号	項目
1	高校に入学する前、高校に対して期待していたことは何ですか。
2	現在通っている高校を選んだ理由は何ですか。
3	高校を選ぶとき、参考にしたことは何ですか。
4	どんなときに、現在通っている高校に入学出来てよかったと実感できますか。
5	現在通っている高校での生活について満足していますか。
6	質問5でそのように回答した理由は何ですか。
7	あなたは普段、授業の予習・復習や受験勉強、資格取得のための学習などを、授業以外（家や塾、放課後の学校等）でどれくらいしていますか。
8	あなたは普段、学校の授業時間以外に一日あたり平均でどれくらいの時間、読書をしますか。
9	あなたは普段、学校の図書館をどれくらい利用しますか。
10	地域や社会をよくするために何をすべきかを考えることがありますか。
11	これからの時代に向けて高校時代に身につけておくことが必要だと思うものはどれですか。
12	質問11で選んだ項目について、あなた自身は、それらを身につけることができていると思いますか。
13	学校だけではなく普段の生活も含めて、これから学びたいと思っていることや、興味・関心を持っていることについて一言で表現してください。
14	今後、どのような形の授業を受けたいですか。
15	現在通っている高校をよりよくするためには、どんなことをしたらよいと思いますか。
16	これからの社会には、どんな高校があったらよいと思いますか。

## 5 地域活性化協議会での議論の概要

中学校卒業者の大幅な減少が予想されている伊賀・伊勢志摩・紀南の各地域に設置した地域協議会において、地域の声を丁寧に聞き取るとともに、教育に関する国の動向やみらい委員会の協議内容を共有しながら、今後の地域の高等学校教育や県立高等学校のあり方等についての協議を継続しています。

県立高等学校みらいのあり方検討委員会  
協議の概要(骨子)

令和3年5月

(三重県)県立高等学校みらいのあり方検討委員会

## 1. はじめに

本県においては、平成 29 年3月に「県立高等学校活性化計画」(以下、「計画」という。)が策定され、生徒一人ひとりに応じた多様な教育や地域で学び地域を活かす教育が推進されてきた。

現行計画は令和3年度末に計画期間が終了することから、次期計画の策定に向けて、学校や PTA、教育委員会などの学校関係者だけではなく、地域産業界や教育・文化等の分野、県立高校 OB など、様々なバックボーンや経験を持つ委員が、既存の高校教育の枠にとらわれない幅広で多様な観点・角度から調査し考察していくことを目的とする、県立高等学校みらいのあり方検討委員会(以下、「委員会」という。)が設置された。

この協議の概要には、中長期的に検討すべき内容の意見もあれば、早急に実施に移すことが望ましい内容の意見もある。また、対立する意見もそのまま記載し、今後の検討に委ねた部分もある。

## 2. 協議の流れと検討テーマの設定

本委員会では、まず、これからの時代を生きる子どもたちに必要な学びや、そのために高等学校はどうあるべきかという大きな視点から協議を行い、以降の本委員会で特に幅広く検討するテーマを設定した。

### 【第1回委員会における意見の概要】

- 自ら物事を考えて課題を解決する方法を体験的に学ぶことが必要
- 実際の経験を積むことを重視し、失敗しても何度でもチャレンジできるようにする
- 多様な他者と関わり、様々な生き方を学ぶことが必要
- 学ぶ楽しみや生きる喜びを感じられるようにする
- 多文化共生の教育や外国人生徒への学習支援をする
- 教員はこれまでの指導方法等にこだわらず、一人ひとりの生徒の状況に応じた学びを工夫して実現することが必要
- グループワークやディスカッションで、生徒が建設的に議論できるよう導ける教員の養成が必要
- 学校は、一人ひとりが様々な面で誰からも肯定され、自身を肯定する力が自分でも他者からも育てられる場であるべき
- 生徒が高等学校を選択しやすいよう、各学校で目指すところを明確にする

### 【検討テーマ】

- ・ 新たな時代に対応した高等学校教育の推進
- ・ 全ての高校生を誰一人取り残さない教育環境づくり
- ・ これからの学びに対応した学科・課程のあり方
- ・ これからの社会の変化と県立高等学校の学びに対応した社会性・人間性の育成
- ・ 県立高等学校の規模と配置

### 3. 協議の概要

#### (1) 新たな時代に対応した高等学校教育の推進

＜実社会とつながった学びの推進について＞

実社会とつながった学びを推進するにあたり、どのような取組や視点が必要であるかについて協議した。

##### 【概要】

- 全ての高校で、インターンや探究活動による企業等との連携、県外地域の先進的な取組を行っている高校との連携などを進めていけるとよい
- 子どもたちにとって、社会の一員として活躍していることを実感できる場や経験が重要であるため、アルバイトを推奨することも考えられるが、一方で、部活動への影響等による学校の活力の喪失が懸念される
- 教職員は、生徒に実社会での学びと学校での学びのつながりを実感させる指導力や学校と外部とをコーディネートする調整力、自らも学び続ける意欲が必要
- これからの時代に必要な学びを実現していくためには、働き方改革を通して教職員の勤務環境や意識を変えていくことが必要
- 生徒は自ら企画を立案し、外部とアポイントメントを取るなど、自分達の学ぶ場を自分たちで作っていくことが望ましい
- 教育関係者は、高校生は「小さな大人」であり、「大きな子ども」のままにしておかないという意識を持って、生徒を主語にした学校づくりを心がけることが大切

＜個別最適な学びの推進について＞

個別最適な学びを推進していくにあたり、どのような取組や視点が必要であるかについて協議した。

##### 【概要】

- 中学校の段階から、自分の興味・関心に基づいて能動的に学ぶ楽しさを体験することが必要
- 生徒の興味と学ぶ目的をつなげていくことで、生徒が自ら学習を進めていけるように導くことが教員には求められる
- 教員が生徒に教えるだけでなく、生徒同士で教え合うという仕組みを取り入れることで、生徒にとっては学びの定着が図られるとともに、教員の生徒理解も促進される
- 学校においては、子ども一人ひとりを主語にしながらかリキュラムを柔軟にすることで多様な学び方を可能にし、そこに軸を通していくことが求められる

## (2)全ての高校生を誰一人取り残さない教育環境づくり

### <外国人生徒への支援について>

外国人生徒が社会の一員として自立するための力を育てていくため、県立高等学校において必要となる視点や取組の方向性、学びのあり方について協議した。

#### 【概要】

- 日本語での概念理解が難しい教科などは母語で開講するとともに、オンラインで受講できるようにするなどして、母語での単位修得を広げていってはどうか
- 将来、日本で大学進学や就職を目指すのであれば、社会に出るまでに日本語を習得できるように徹底するべき
- 生徒が学校を休んでしまう背景について分析し、授業に出席できるよう、教職員や学校でサポートしていける体制があるとよい
- あるアメリカのコミュニティ・カレッジでは、生徒が集まって得意分野を互いに教えあえる「ラボ」という場が校内にある。こうした例を参考に、日本人と外国人が共に学び、教え、サポートし合えるような仕組みや場所を作り、誰でも好きなときに行けるようにするとよい
- 外国人生徒を対象とした入試枠がある高校は少なく、進学の実選択肢が定時制高校のみになってしまう状況があるため、こうした入試枠を各地域で増やすことが必要
- 単位修得や修業年限などについて、生徒の状況に合わせた柔軟な制度としていくことが必要
- オンライン等を使ってどこの地域・学校でも同じような支援を受けられる環境の整備や、生徒の相談に対応できる支援員を確保していくなど福祉的な視点も含めたサービスを充実していくことが必要

### <不登校生徒への支援について>

不登校生徒が自身と社会とのつながりを途切れさせることなく、社会性や自立心を育み、安心して学んでいくために必要となる視点や取組の方向性、それらをふまえた高等学校のあり方について協議した。

#### 【概要】

- 生徒一人ひとりが多様な価値観を認められることで、自分はこの地に居てもよいと感じられるようにすることが大切
- 様々な背景の子どもたちに対応できるよう、授業への出席や他校への転学のしやすさ等について、フレキシブルな仕組みを考えていくことが重要
- 不登校や退学によって将来の実選択肢が狭まらない仕組みを整備することが必要
- 転入学・進級時の不適応を減らし、そう感じたときに対応できるよう、柔軟に進路変更ができる仕組みなどについて、生徒や保護者に伝えていくことが必要

### (3)これからの学びに対応した学科・課程のあり方

これからの時代に必要とされる人材を育成するとともに、多様な生徒の可能性及び能力を最大限に伸ばしていくために、本県の学科・課程における学びの内容や方法をどうしていくべきかについて協議した。

#### 【概要】

- 新たな学科や学校を考える際は、そこで育てたい生徒の姿などが生徒や保護者、地域に理解され、学校の特色として続いていけるよう、教職員を中心に、地域や中高生も含めて議論していくことが大切
- 普通科においては、必要に応じて様々な特色ある学科・コースを新たに考えていくべきだろう
- これからの専門学科においては、状況に応じて必要な学びを柔軟にとり入れたり、複数の学科を統合することなどにより、専門性は確保しつつ、分野横断的な学びについても考えていくべきではないか
- 専門学科の学びにおいては、基本を確実に身につけ、これからの技術の進歩に対応するとともに、応用していける考え方を学ぶことが必要
- 望ましい学びの実現には一定の学校規模が必要であることをふまえると、普通科等を統合し、学びの多様性がある子どもたちのニーズに応じていきやすい総合学科を拡充していくとよいのではないか
- 定時制と通信制を組み合わせた通信サテライト校を整備するなど、定時制と通信制が連携したフレキシブルな仕組みを作っていくべき
- ICTを活用して他校の授業を受けられる環境の整備や、授業手法や指導実績を学校間で共有する仕組み、地域の大人や大学・企業が高校教育に参画する仕組みをつくっていくことが必要だろう
- 教員を育成する体制づくりがより進むよう、必要に応じて同一校での勤務年数を長期化したり、子どもたちにより良い学びを提供するため、教員の意欲や経験、能力をふまえた配置とするなど、教員の人事についても考えていく必要があるだろう
- 他県の特色ある事例を安易に目指すのではなく、三重県の現状をしっかりと認識した上で、どのような高校教育を実現していくかについて議論すべき

#### (4)これからの社会の変化と県立高等学校の学びに対応した社会性・人間性の育成

選挙権年齢や成年年齢の引き下げといった制度改革、少子化による学校の小規模化、新型コロナウイルス感染症の影響等により、高等学校と生徒を取り巻く状況は大きく変化してきており、学校生活のあり方もこれまでどおりではなくなりつつある中、学校生活を通して生徒に社会性・人間性を育てていくために、今後どのようなことが必要と考えられるかについて協議した。

また、高校生へのアンケート調査の結果をもとに、読書や学校図書室の利用促進についても協議した。

##### 【概要】

- 教員は、授業の中で育てたい生徒の姿を実現していくために、知識を教え込むだけではない授業のあり方を考えていくことが必要
- 外部の大人に教えてもらうことなど外部人材を活用することは生徒にとって新しい刺激になると同時に、教員の多忙化を解消する手段にもなる
- 生徒の主体性を育むための仕組みを整備し、教員は生徒に「べき」論を押し付けるのではなく、生徒に任せられるようになることが必要
- 理想の学校のあり方や当たり前になっている学校のルールを見直すことについて、対話する場を設けるとよい
- 小規模化が進む中、学校の垣根を越えて授業や部活動を行える仕組みを構築したり、生徒会同士の連携を進めるなど、より広いつながりの中で、生徒の学びや学校生活を保障していけるとよい
- SNS等での情報の真偽を判断する力を、情報教育などと一緒に進めていくことが必要
- 授業や課題の中に読書を取り入れるなどして、本を読むための時間を確保するとともに、生徒に読書の楽しさや有用性などを体験できるようにすることが大切



## (5) 県立高等学校の規模と配置

今後の少子化の進行や県立高等学校の現状、子どもたちの進学希望の状況をふまえ、社会性の育成、ニーズに応じた幅広い教科・科目の開設、学校行事や部活動の充実等を保障していくことのできる高等学校の規模について協議した。

また、1学年4学級規模となった専門学科高校では学科の多様性や専門性を維持することが困難となったり、一部の高等学校では集団での部活動が困難となったりするなど、全県的に県立高等学校の小規模化が進む中で、これらの学校の今後のあり方を検討していく上で、どのような方向性が考えられるかについて協議した。

### 【概要】

- 小規模校は個別最適な学びを実現しやすいが、一方で、同年代の多様な人間関係の中で社会性を育てていくという点などは担保しにくい
- 高校の志願状況を踏まえると、地域の子どもを同一地域の学校に進学させようとするのは、地域の子どもや保護者の教育要求に必ずしも適合していないと考えられるため、施策の方向性を変えていくべきではないか。一方で、都市部の学校にあっては、その周辺地域も自分たちの地域であるという観点で、都市部から周辺地域の活性化に貢献していくことも検討すべきではないか
- 子どもたちの進学希望を実現できるコースが地域の学校にあるとよい
- 小規模校においては、子どもたちのニーズに沿った多様な学びや高校生活を提供していけるよう、これまでの取組を検証した上で、存続か統合かを考える時期に来ているのではないか
- 小規模校を活性化していくためには、限られた財政的・人的リソースをどのように確保していくかが重要であり、都市部の大規模校の定員数を減らして、その分を小規模校に配分していくことも考えられるのではないか
- 今後、一つひとつの学校がさらに小規模化していく中で、複数の学科を併設することのよさを考えると、専門学科の統合を考えていく時期に来ているのではないか
- 高校に通えない地域が出ないようにしていくことが統合にあたっての前提であり、併せて、生徒の過度な通学負担等をサポートする方策を考えていく必要がある
- 既存の学校の枠にとらわれない、新しい形の学校についても検討する必要がある

## 令和3年度第1回教育改革推進会議概要

日時 令和3年5月20日(木) 18時00分～20時00分

### 【これからの県立高校のあり方について】

- 中学校においては地域の商店等での職場体験などキャリア教育の取組が進んでいるが、高校、特に進学校においては、そうした地域との学びを継続的に行うことが難しいと感じる。今後、高校においては、例えば高校所在地の中学校区の地域の方々と複数年にわたって連携し、関わり続けられるような取組があれば、地域と連携した子どもたちの学びがより深まるのではないかと考える。
- 地域内に2つの高校しかない紀南地域においては、今後も生徒数の減少が続き、推計によると令和7年度に地域内で1学級減が避けられない状況にある。高校は活性化にがんばって取り組んでいるが、子どもたちの減少が進む中でもう限界にきていると感じている。今後は、県教委にも方向性を示してもらいながら、協議会において具体的な検討を進めたいと思っている。
- 伊勢志摩地域における本年度の入試状況を振り返ると、小規模高校の存続を前提として都市部の中規模高校の定員数を減じたことに伴って都市部の私立高校への入学者が増加する結果となり、必ずしも子どもや保護者のニーズをふまえた調整となっていなかったのではないかという印象を持っている。
- 新型コロナウイルス感染症を背景に不登校児童生徒が増えているとともに、N高などの広域通信制高校に転学する生徒も増加している。こうしたことをふまえ、本県においてもインターネットを活用して高校卒業資格を取得できる通信制高校について検討していく必要があるのではないか。
- 外国人生徒の受け入れを充実させていくとしても、日本語しか話せない教員が様々な言語・国語を持つ生徒を指導していくのは現実的に難しい。まずは、外国人生徒を受け入れている学校の教員から実情を聞き取り、現状を把握したうえで、どのようなカリキュラムとすべきか、どういった教員を配置しなければいけないかを考えていく必要がある。
- 個別最適な学習を進めていくためには、子どもたちが関心を持って学んでいけるよう、一人一台タブレットの活用や周りの大人のサポートを通して、子どもたちが自分の興味や身近にある課題の解決と学びを結びつけられるようにすること、また、こうした学びが小中高を通して行えるようにしていくことが大切である。
- 高校入試についても、子どもたちの様々な個性・能力や学びを評価できるような入試制度への改善を図っていくことが必要である。

- 子どもの高校受験の際に開催された各高校の説明会では、小規模高校においては教員が一人の生徒に対して熱心に指導してもらえ、その結果として、子どもの望む進路の実現に向けて子どもと一緒に取り組んでくれるという印象を持った。小規模校の今後を検討するにあたっては、地域の子どもの人数が減っていくなどの状況もあるが、小規模校の良いところを大事にしていけるよう考えていくことも必要ではないか。
- 三重県の県立高校の規模と配置の問題は、これまでの対応の結果として高校の規模が小さくなった現状についてこのままで良いのかということであり、これまでの方針を転換することを前提に、人間形成の場としての学校における生徒の学びや教育の質をどのようにしたら維持・向上させていけるのかという観点から、今後のあるべき形を考えていく必要がある。
- 今後の議論に際しては、学校の小規模化にともなって何が起こってきたのか、子どもたちの学習や人間形成にどのような影響が生じているのかといったことをふまえ、今後どのようなことが起こりうるのかをできる限り考えていくことが必要である。さらに、人的・財政的な効率性という面も考える必要がある。今後、必要などころに必要な資源を充てていくためには現状のデータを押さえておく必要がある。
- 今後、県立高校における特色ある学科・コースを考える際には、私立高校が建学の精神にもとづく特色ある教育を実践していることもふまえ、私立高校と県立高校の棲み分けを考慮して検討する必要があるのではないか。
- 県境にある高校の統合を考えるにあたっては、当該地区の日常の生活圏もふまえた上で、例えば和歌山県や奈良県の高校との統合などを考えても良いのではないか。
- 若手教員が小規模校に赴任した場合に相談できる同僚が少なく人材育成がなかなかうまくいかないといった状況は小中学校教員の例として聞くことがある。教員の苦しい状況は生徒にも影響が及ぶことから、同じ教科の教員が複数人いて互いに相談しあえ校務も分担できる、教員に過度な負担がかからないような学校規模を考えていく必要がある。
- これからの県立高校活性化の進めていく上での基礎になるものとして教員の働き方改革を進めていくことが必要である。部活動の指導やICT化への対応などもある中で、現場の教員が疲弊しないようにする方策についてもこれからの学校のあり方とあわせて考えていかなければならない。

## 今後の県立高校活性化の基本となる考え方について

### 1 これからの県立高等学校活性化の基本的な考え方について

第 1 回教育改革推進会議で各委員からいただいたご意見をふまえ、これからの県立高校活性化の柱となる「基本的な考え方」を以下のとおり整理しました。

今後、次期計画骨子案の策定に向け、「基本的な考え方」に沿った具体的な取組について検討を進めていきたいと考えています。

#### （1）新しい時代を生き抜いていく力の育成

- ア) 人生 100 年時代の中で、自立した学習者として学び続けることのできる力の育成
- イ) さまざまな変化に主体的に向きあいながら、新たなことを学び、挑戦する意欲の育成
- ウ) 自らの生き方や働き方について考えを深め、学ぶことと自己の将来とのつながりを見出していくことのできる力の育成
- エ) 多様な選択肢の中から進路を決定する能力や人間関係を築く力の育成
- オ) 諸課題の解決に向けて自分の意見や考えを伝えあい、他者と協働してより良い社会を形成しようとする力の育成

#### （2）新たな時代に対応するために必要な力を育むための学びの推進

- ア) 全ての生徒における主体的・対話的で深い学びにつながる授業改善
- イ) 生徒一人ひとりの状況に応じた指導と個々の生徒に応じた学習活動の提供などの個別最適な学び
- ウ) 文系・理系を問わず、教科横断的な視点で物事をとらえ、実社会での課題解決に向けて創造的思考力や論理的思考を育む学び
- エ) 地域の方々や職業人など多様な人々と関わりながら、地域の特色や産業を題材に地域の魅力や課題を知り、自分たちに何ができるのかを主体的に考えて行動する課題解決型の学び
- オ) 異なる文化に対する理解や郷土への愛着、語学力やコミュニケーション能力などを高め、将来、世界にあっても地域にあっても活躍できる力の育成に向けた学び
- カ) ICT をはじめとした先端技術を手段として積極的に活用しながら実社会の課題等の解決をめざし、人間ならではの考え方で新たな価値を創造できる力の育成に向けた学び

#### （3）多様な生徒が学べる環境の整備

義務教育段階の学び直しが必要な生徒、日本語指導が必要な生徒、特別

な支援を必要とする生徒、不登校の状況にある生徒、経済的困難な状況にある生徒等の個別の学習ニーズに応え、将来のキャリアや職業等に希望を持ち、安心して学びを続けることのできる環境の整備

#### (4) 少子化の中での学校や学びの特色化・魅力化の推進

- ア) 生徒の多様な進路志望に対応するとともに、これからの時代に求められる力を備えた人材を育成できる普通科、専門学科、総合学科、定時制、通信制における学び
- イ) 小規模高校の総括的な検証をふまえ、全ての県立高校に通う生徒に部活動も含めた教育活動の中で社会性・人間性を育むとともに、生徒の学習ニーズに対応した幅広い科目の開設や専門性が維持できる学校の規模やあり方
- ウ) 生徒の学びのニーズを基本としながら、通学環境、地域における高校の役割をふまえた学校の配置

#### (5) 特色・魅力ある教育の実現に向けた学校経営と教職員の資質向上

- ア) 多様な主体との連携・協働など、学校内外の教育資源を最大限に活用した教育の推進
- イ) 校長のリーダーシップのもと、学校内外の人材との連携と分担を通して様々な課題に対応できる学校マネジメントの推進
- ウ) 各学校において育成をめざす資質・能力等に係る教育活動の指針の明確化とカリキュラム・マネジメントを通じた教育活動の改善
- エ) 生徒の可能性を引き出すための個別最適な学びと協働的な学びの実現に向けた教職員の資質の向上
- オ) 中学生や保護者、中学校教員をはじめ広く県民の皆さんに向けた各学校における特色・魅力ある教育の情報発信

## 2 県立高校の規模と配置について

### (1) 平成元年から令和3年の状況

県内の中学校卒業生数は、平成元年から令和3年の間に29,994人から15,777人と約47.4%の減となっています。同様の期間における全日制課程を置く県立高校の設置数は、62校から54校へ8校の減少となっており、とともに、学級数は485学級から271学級と約44.1%の減少、1校あたりの平均学級数は7.82学級から5.02学級に減少しています。

### (2) 現行計画における規模と配置の考え方と小規模校の取組

#### ① 基本的な考え方

- 高等学校においては、生徒が集団の中で多様な考えに触れ切磋琢磨することで、思考力や表現力、判断力、問題解決能力などを育み、社会性や規範意識を身に付けることが重要である。

- 生徒の希望等に応じた多様な選択科目の開設が求められており、専門性などでバランスの取れた教員配置を行うためには一定の教員数が必要である。
- 高等学校の配置については、学校の規模だけでなく、地域の担い手育成など地方創生の取組が進められていること、生徒の通学など教育機会の保障への配慮等をふまえる必要がある。
- 高等学校の規模や配置、学科のあり方については、地域の状況や学校の果たす役割、学校・学科の特色等に配慮するとともに、地域活性化協議会等の場で地域の方々の声を聴きながら総合的に判断する。
- 高校の活性化については、生徒はもとより、県民の方々が学校の特色や果たす役割等に積極的な意義を感じ、「行きたい学校」、「誇りに思う学校」となることを目指し、学校、地域、行政など全ての関係者が当事者意識を持って行動していく必要がある。

## ② 望ましい学校規模

- 高等学校は社会性の育成、幅広い教科・科目の開設、学校行事や部活動充実のために一定の規模が必要となること、多くの県で1学年4学級から8学級を適正規模としている中で本県の地理的な特徴や地域により状況が異なることを考慮して、望ましい学校規模を1学年3～8学級としています。

## ③ 1学年2学級以下の学校（小規模校）における活性化の取組

1学年2学級以下の高等学校（3学級規模の学校もこれに準じる）においては、学校ごとに市町関係者や地元産業界、小中学校および高等学校の保護者や教員等で構成する協議会を設置し、学校は「地域でどのような役割を担い地域に貢献するか」という視点で、地域や産業界は「子どもたちのために学校とともに取り組む」という視点で、地域の状況、学校・学科の特色等をふまえた活性化に取り組んできました。

現行計画の最終年度である令和3年度においては、活性化の取組や生徒の進路実現の状況、入学者の状況など、その活動と成果の総括的な検証を行い、その後のあり方を検討することとしています。

（詳細は資料4「小規模校における活性化の取組」等）

## （3）現行計画期間における県立高校の変化

### ① 全国の全日制第1学年学級数別の学級規模の状況（資料5-1）

平成28年から令和3年の5年間における本県の全日制高校1校あたりの平均学級数を見ると、全国平均では5.61から5.23へ減少する中、本県においては5.83から5.02へ減少しています。

（参考）県立高等学校(全日制)における学級数の状況(資料5-2)

## ② 学科・コースの新設・改編

生徒数の減少や地域のニーズ等、高校教育を取り巻く社会情勢の変化に対応するため、以下の学科・コース等の新設、改編を行いました。

	高 校	改 編 前	改 編 後
平成 29 年度	稲生高校	普通科モータースポーツ類型	普通科自動車工業類型
平成 30 年度	四日市工業高校	(新設)	ものづくり創造専攻科
平成 31 年度	伊賀白鳳高校	工芸デザイン科	建築デザイン科
	明野高校	流通科学科募集停止	農業に関する学習は生産科学科と食品科学科の教育内容に引継ぎ
令和2年度	志摩高校	普通科国際コース募集停止	国際コースの学びは普通科の類型に引継ぎ
	稲生高校	普通科情報コース募集停止	情報コースの学びは普通科の類型に引継ぎ
令和3年度	四日市農芸高校	生産科学科 食品科学科 環境造園科 園芸科学科	農業科学科 食品科学科 環境造園科

## ③ 普通科・普通科系専門学科

- 平成 29 年度に 9 学級規模であった 3 校は令和 3 年度にはいずれも 8 学級となり望ましい学校規模の上限を超える学校はなくなるとともに、8 学級規模であった 9 校のうち 6 校が 7 学級、1 校が 6 学級となりました。
- 望ましい学校規模の下限を下回る学校は、平成 29 年度の 5 校から令和 3 年度は 8 校（9 校舎）となりました。

## ④ 職業系専門学科

- これまで、募集定員の策定においては、職業系専門学科における小学科（工業学科の機械科、電気科など）の多様な学びを維持する観点から、複数の学級規模のある小学科を減じてきました。その結果、志願者の多い機械科を含め、多くの小学科が 1 学級規模となりました。こうした中、地域で唯一の職業系専門学科を設置する高校や 1 学年 3 学級以下の高校のうち職業系専門学科を設置する学校においては、定員を減じる中においても専門教育を保障し、生徒が多様な選択肢の中から進学先を選ぶことができるよう、一学級 35 人もしくは 30 人の学級編成を行いました。

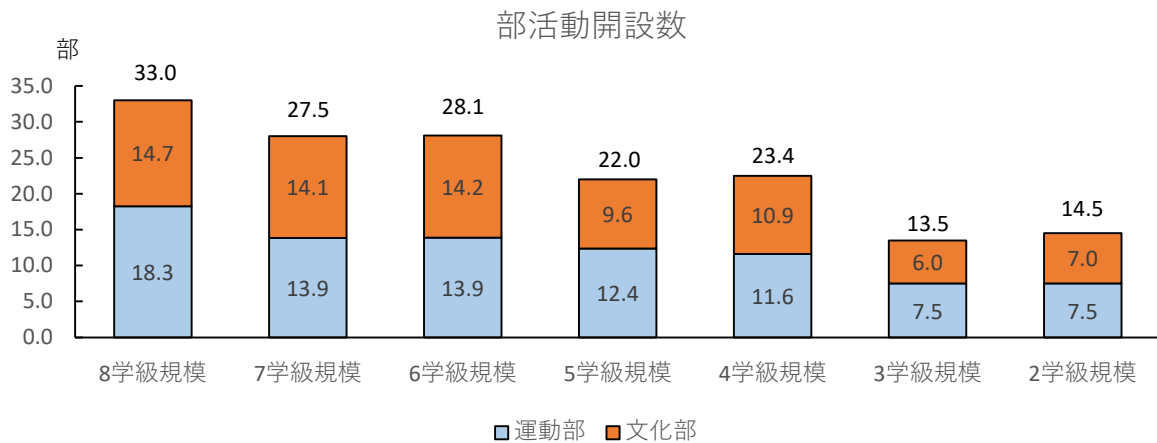
## ⑤ 総合学科

- 多岐にわたる進路希望を有する生徒が普通科系教科や専門系教科の中から主体的に学習内容を選択することができる総合学科は、生徒における幅広い選択を可能とする教育課程の編成が必要となります。
- 7 学級規模・5 学級規模の総合学科における普通科系教科の科目数は平均

67 科目、専門系教科の科目数は平均 59 科目、2 学級規模・1 学級規模の総合学科における普通科系教科の科目数は平均 37 科目、専門系教科の科目数は平均 25 科目となっています。

## ⑥ 特別活動等

- 学校の規模が小さくなることに伴い、学校行事等の特別活動や部活動において、生徒が集団の中で多様な考えに触れ切磋琢磨することで、思考力や表現力、判断力、問題解決能力などを育み、社会性や規範意識を身に付ける機会を維持することが困難となります。
- 学級数別の部活動開設数は、6 学級規模の学校では平均 28.1 部（運動部 13.9 部、文化部 14.2 部）、5 学級規模の学校では平均 22.0 部（運動部 12.4 部、文化部 9.6 部）となっています。





## 小規模校における活性化の取組

現「県立高等学校活性化計画」において、人口減少や生徒数の大幅な減少が見込まれる中、地方創生、地域の担い手育成の視点を大切にしながら、地域との協働による魅力ある教育と学校づくりを進めてきました。

1 学年 3 学級以下の小規模な高等学校においては、学校ごとに活性化協議会を設置して、市町関係者、地元産業界の地域関係者と学校の魅力向上とそれに伴う入学者の増加をめざして具体的方策を協議し、地域の状況、学校・学科の特色などをふまえ、「活性化プラン」を策定して、地域と一体となった活性化の取組を推進してきました。

### 【学校別協議会を設置している高校：9 校 10 校舎】

白山高校（津市）、飯南高校（松阪市）、昴学園高校（大台町）  
南伊勢高校南勢校舎（南伊勢町）、南伊勢高校度会校舎（度会町）  
鳥羽高校（鳥羽市）、志摩高校（志摩市）、水産高校（志摩市）  
あけぼの学園高校（伊賀市）、紀南高校（御浜町）

## 1 活性化の取組

### （1）地域と連携した教育の充実

#### （地域課題解決型キャリア教育モデル構築事業等：R 1～3 年度）

地域の小規模校を実践パイロット校に指定し、高校生が地域の課題や産業を題材に、地域住民や職業人と関わりながら探究的に学ぶ地域課題解決型キャリア教育に取り組んでいます。取組を通じて生徒が地域への愛着や誇りを高め、その地域で活躍できる将来像をイメージすることや将来にわたって学び続けることのできる能力・資質の育成もめざしています。

各パイロット校には、地域と学校をつなぐコーディネーターが巡回し、各校の学習活動の支援、地域の方々や職業人とより深く関わる学習環境の整備等をサポートしています。

各パイロット校は学校の実情に応じて育てたい生徒の力を明確にし、教育課程に位置づけて実施しています。生徒は、個人またはグループで、地域産業、観光、地域学など、テーマを設定し、

- ・地域のプロフェッショナルからの講義
- ・実際の現場において業務を体験
- ・市場調査・先進地調査の実施／それらに基づいた商品開発
- ・長期休業期間を利用した業務の体験や実験販売
- ・県内外の先進地において同様のテーマに取り組む高校生と交流

などの学習や活動を通じて地域の課題解決に取り組んできました。

## ○ 特徴的なカリキュラムの設定

- ・ 新しく設置した「地域創生アドバンスコース」での「地域探究」「地域課題研究」などの科目において、地元企業の方々や町長をはじめとする行政関係者からの講話や対話などから地域を学び、探究活動につなげています。(南伊勢高校南勢校舎)
- ・ 文部科学省「地域との協働による高等学校教育改革推進事業」の指定を受けて、カリキュラム開発に取り組んでいます。「産業社会と人間(1年生)」で、地域産業や観光資源のフィールドワーク等を通じて地域を知り、課題を見つけ解決策を考察し、「キャリアデザイン(2年生)」で、地元企業でのインターンシップ等を通じて、過疎地域での企業経営等の工夫や努力、展望等について学び、3年生の「いいなんゼミ」では、さらに研究を深めてレポートをまとめ、「いいなんゼミ発表会」において地域の方々等に学習の成果を発信します。(飯南高校)
- ・ 志摩市や地域の協力を得ながら、「総合的な探究の時間」を活用し、生徒全員が3年間にわたってフィールドワークやインターンシップ等で地域を知り、地域で体験し、地域課題の解決策について考える「志摩学」での探究活動に取り組んでいます。(志摩高校)
- ・ 学校設定科目「鳥羽学」では、毎時間鳥羽市のサポートを得ながら、海女文化の学習・魅力発信や中心市街地活性化等について考える授業を展開しています。(鳥羽高校)
- ・ 学校設定科目「地域産業とみかん」では、地域の協力を得ながら、地域の特産品みかんの栽培から流通までの過程や、関連する産業について、体験活動を通じて体系的に学ぶとともに、課題解決力やコミュニケーション力を育む探究的な学びに取り組んでいます。(紀南高校)
- ・ カリキュラムの設置時に比べて取組に魅力を感じる生徒が減ってきたことなどから、選択する生徒が少なくなる事例もあり、課題となっています。

## ○ 他校や他県の先進校との交流等

地域の特産物を利用した他県の先進的な取組をしている学校を訪問し、意見交換など生徒同士の交流をしたり(紀南高校)、三重テラスにおいて、生徒が開発に取り組んだ新商品のPR活動や販売実習を行ったりしました(あけぼの学園高校)。コロナ禍の中で、オンラインも活用し、先進的な地域活性化取組を行っている他県の高校と交流・協働してPRポスターを作成するなどJR名松線の活性化をめざす取組もはじめています(白山高校)。

また、夏季休業中に開催されている全国高校生 SBP 交流フェア(Social Business Project:伊勢市で開催)に生徒が参加し、地域資源を生かした課題解決型のプロジェクト学習に意欲的に取り組む全国の高校生と交流しました。

※ 参加校:南伊勢高校南勢校舎、同高度会校舎、飯南高校、白山高校、あけぼの学園高校、紀南高校、昴学園高校

## ○ 各地域での成果発表会の開催

各校は、年度末に地域の方々を招いて成果発表会を開催し、学習の成果を発信・PRをするとともに、次年度の取組の改善につなげています。コロナ禍の中、より多くの地域の方々に参加いただくことが課題となっています。

## (2) 課外活動

- 授業等で地域学習や地域課題の解決に興味・関心を持った生徒たちが、課外活動として地域に貢献する活動をはじめており、地域でのボランティア活動への参加や地域イベントで自分たちが作成したプロジェクトマップングの上映など活動は広がりを見せています。(南伊勢高校南勢校舎、同高度会校舎、昴学園高校、紀南高校等)
- 地域研究サークル「とぼっこくらぶ」では、鳥羽市観光課や定期船課と連携した地域活性化の取組を行ったり、観光甲子園全国大会での入賞や他府県高校との交流等の活動を続けています。(鳥羽高校)
- 「道の駅コラボプロジェクト」として連携中学校と一緒に活動したり、地域を盛り上げることを目的に活動している学校のサークル活動(応援団活動)において地域の企業とコラボレーションした「木の手帳」の開発に取り組んだり、地域の大きな課題である空き家問題の解決に取り組んだりするなど、地域のさまざまな団体と連携した活動を実施しています。(飯南高校)

## (3) 高校生地域創造サミットの開催

高校生が地方創生や地域活性化の重要性について理解し、地域のことを主体的に考え行動する意欲や地域とともに課題解決に取り組む姿勢を身につけられるよう、平成29年度から高校生地域創造サミットを開催しています。サミットでは、高校生が地域の課題を題材として、フィールドワークや他県・他地域の高校生とのディスカッションを行い、高校生ならではの発想による「地域を活かした」解決策を多様な考えに触れながら検討します。

これまでに、南伊勢町(H29)、鳥羽市(H30)、紀北町(R1)で開催し、県内の県立や私立高校および県外高校生に加え、大学生サポーター等も参加しました。今年度は、松阪市飯南飯高地域での開催を予定しています(令和2年度は新型コロナウイルス感染症拡大のため中止)。

## (4) 市町からの小規模校支援策

各学校が活性化に取り組む中、地元の市町から小規模校への様々な支援が実施されています。

町内から南勢校舎に通学する生徒への町内バスの無料化や下校バスの増便、南勢校舎から大学等への進学者への給付奨学金の設立(南伊勢町:南伊勢高校南勢校舎)、海外研修参加者への経済的支援等(志摩市:志摩高校、水産高校)、内閣府事業「高校生の地域留学推進のための高校魅力化支援事業」への参画、県外生や地域留学生のための保証人の確保等(大台町:昴学園高校)、

学校活性化に向けたコンソーシアムの結成やフィールドワークでの支援等（松阪市：飯南高校）、「鳥羽学」の授業支援等（鳥羽市：鳥羽高校）、通学の利便性向上のためのコミュニティバス整備（津市：白山高校）など、各地域において小規模校の学習活動等を支援する体制が構築されました。

#### （５）学校の情報発信・PR活動

全ての小規模校において、学校の活性化の取り組みを地域住民、地域の小中学生やその保護者へPRするために、地域の広報誌等への定期的な記事掲載、地域への学校通信やコミュニティ通信等の配布、学校ホームページの更新やSNSでの情報発信、生徒や教員による小学校への出前講座や交流活動等、さまざまな広報活動に取り組みました。

地域における学校への理解は進み、評価は上がってきたものの、入学者の増加にはつながりにくい状況です。

#### （６）県外からの生徒募集活動

- 県外からの入学者の増加をめざして、全ての小規模校において「保護者の転住を伴わない県外からの志願者の受入制度」を設けましたが、県外からの入学につながったのは以下の学校になります。

学 校 名	入学者数		
	平成 31 年度	令和 2 年度	令和 3 年度
白山高校	6	6	2
昴学園高校	-	3	9
あけぼの学園高校	1	-	-
紀南高校	1	5	2

- 地域の小規模校で学ぶ全国で魅力を紹介するイベント「地域みらい留学フェスタ」（一般社団法人 地域・教育魅力化プラットフォーム主催）に、昴学園高等学校（令和元年度～）と飯南高等学校（令和2年度～）が参画し、県外からの生徒募集活動を行いました。

※「地域みらい留学」を活用した県外からの入学生

昴学園高校：令和2年度入学生3人、令和3年度入学生9人

飯南高校：令和3年度入学生0人

- 全国的な動きの中、より魅力的な教育活動を進める必要があるとともに、下宿などのハード面の整備に課題があります。

## 2 生徒の進路実現の状況

### （１）基礎学力の定着に対する取組・状況

- 基礎学力の定着に向けて、国・英等の授業での習熟度別の丁寧な学習指導、SHR等での学習タイム、基礎力診断テスト結果に応じた課外授業での個々への丁寧な指導等により、特に基礎・基本養成レベル（D3）の生徒を中心に多くの学校で基礎学力診断テストの結果が向上しました（志摩高校、あけ

ぼの学園高校、昴学園高校、南伊勢高校度会校舎、白山高校等)。また、水産高校ではA Iドリルを活用し、生徒の学力や速度に応じた個別最適化学習を数学と英語の授業で導入しました。

- 専門性を高めて知識や技術を身につけるとともに生徒の自己肯定感を高め、希望する進路が実現できるよう、資格取得に向けた学習活動を進めています。(水産高校、あけぼの学園高校)

## (2) 就職支援に対する取組・状況

- 地域学習やインターンシップ等の取組により、生徒の地域や地域産業等への理解は進みましたが、多くの学校で地元企業への就職状況等に目立った変化は見られませんでした。
- 南伊勢高校南勢校舎では、町の支援により就職活動支援員が配置され、就職者のうち町内企業への就職者の割合は増えています。水産高校では、全就職者に占める水産・海洋分野への就職者の割合は上昇傾向にあり、全寮制の昴学園高校では、地元大台町出身者以外の生徒で、卒業後に大台町内の企業に就職する事例もみられました。

## (3) 進学支援に対する取組・状況

- 地域の協力による看護体験実習や医療看護講座等により、毎年一定数、医療分野の上級学校への進学者がいます。また、進学グループの設置により校内で進学意識が高まり、地元の小学校教員を目指す生徒が地域推薦入試にて三重大学教育学部に進学しました。(志摩高校)
- 町の支援による進学課外授業や大学進学給付型奨学金の補助制度を活用することで大学への進学者が増加しました。その中には地元の教員を目指して地域推薦入試にて三重大学教育学部に進学した生徒もいました。(南伊勢高校南勢校舎)
- 「いいなんゼミ」で生徒が研究した地域での学び テーマをより深く学ぶために大学等へ進学する実例が増えています。(飯南高校)

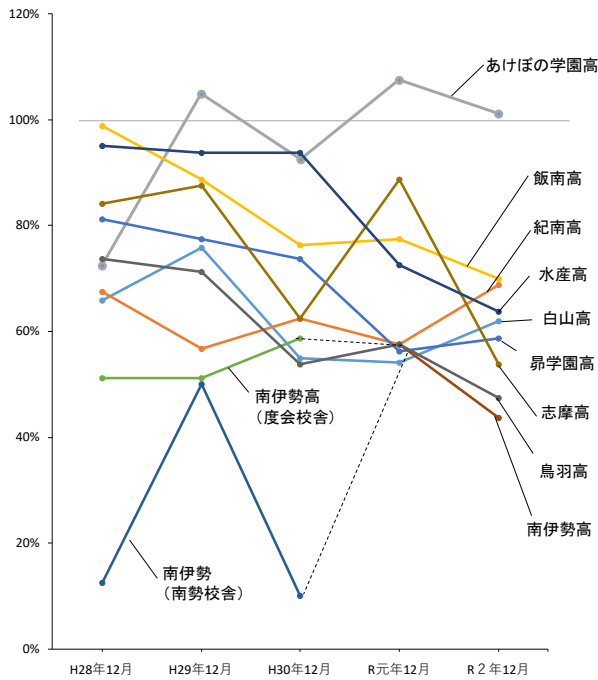
- ・ 空き家片付けプロジェクトに取り組んだ生徒が、地域の活性化を学ぶために地域創生学部の大学へ進学
- ・ 理想の介護施設を研究した生徒が、生活科学科の短大へ進学
- ・ 児童分野に関心がある生徒が「箱庭療法」を研究し、社会福祉学部の大学へ進学

### 3 入学者の状況

- 県内の全ての中学3年生に対して毎年12月に実施している進路希望調査（12月調査）の結果を見ると、希望者が定員を上回っているのは1校のみにとどまり、他の小規模校への進学希望者は減少傾向にあります。
- 入学者の状況（令和3年度）を見ると、定員充足率が100%を超えているのは1校のみとなっています。

#### 小規模校の進路希望状況（12月調査）の推移（最近5ヶ年）

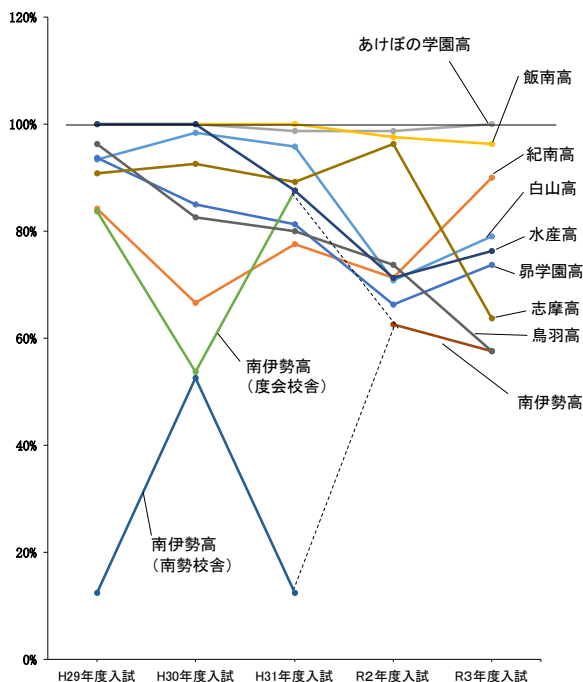
充足率(希望者数/入学定員)の推移グラフ 県内中学生のみ



	H28年12月	H29年12月	H30年12月	R元年12月	R2年12月
白山高	充足率 65.8%	75.8%	55.0%	54.2%	61.9%
	希望者数/定員 79 / 120	91 / 120	66 / 120	65 / 120	65 / 105
あけぼの学園高	充足率 72.5%	105.0%	92.5%	107.5%	101.3%
	希望者数/定員 58 / 80	84 / 80	74 / 80	86 / 80	81 / 80
飯南高	充足率 98.8%	88.8%	76.3%	77.5%	70.0%
	希望者数/定員 79 / 80	71 / 80	61 / 80	62 / 80	56 / 80
昂学園高	充足率 81.3%	77.5%	73.8%	56.3%	58.8%
	希望者数/定員 65 / 80	62 / 80	59 / 80	45 / 80	47 / 80
南伊勢高(度会校舎)	充足率 51.3%	51.3%	58.8%		
	希望者数/定員 41 / 80	41 / 80	47 / 80		
南伊勢高(南勢校舎)	充足率 12.5%	50.0%	10.0%		
	希望者数/定員 5 / 40	20 / 40	4 / 40		
南伊勢高				充足率 57.5%	43.8%
				希望者数/定員 46 / 80	35 / 80
鳥羽高	充足率 73.8%	71.3%	53.8%	57.5%	47.5%
	希望者数/定員 59 / 80	57 / 80	43 / 80	46 / 80	38 / 80
志摩高	充足率 84.2%	87.5%	62.5%	88.8%	53.8%
	希望者数/定員 101 / 120	105 / 120	75 / 120	71 / 80	43 / 80
水産高	充足率 95.0%	93.8%	93.8%	72.5%	63.8%
	希望者数/定員 76 / 80	75 / 80	75 / 80	58 / 80	51 / 80
紀南高	充足率 67.5%	56.7%	62.5%	57.5%	68.8%
	希望者数/定員 81 / 120	68 / 120	50 / 80	46 / 80	55 / 80

#### 小規模校の入学者状況の推移（最近5ヶ年）

充足率(入学者数/入学定員)の推移グラフ



	H29年度入試	H30年度入試	H31年度入試	R2年度入試	R3年度入試
白山高	充足率 93.3%	98.3%	95.8%	70.8%	79.0%
	入学者数/定員 112 / 120	118 / 120	115 / 120	85 / 120	83 / 105
あけぼの学園高	充足率 100.0%	100.0%	98.8%	98.8%	100.0%
	入学者数/定員 80 / 80	80 / 80	79 / 80	79 / 80	80 / 80
飯南高	充足率 100.0%	100.0%	100.0%	97.5%	96.3%
	入学者数/定員 80 / 80	80 / 80	80 / 80	78 / 80	77 / 80
昂学園高	充足率 93.8%	85.0%	81.3%	66.3%	73.8%
	入学者数/定員 75 / 80	68 / 80	65 / 80	53 / 80	59 / 80
南伊勢高(度会校舎)	充足率 83.8%	53.8%	87.5%		
	入学者数/定員 67 / 80	43 / 80	70 / 80		
南伊勢高(南勢校舎)	充足率 12.5%	52.5%	12.5%		
	入学者数/定員 5 / 40	21 / 40	5 / 40		
南伊勢高				充足率 62.5%	57.5%
				入学者数/定員 50 / 80	45 / 80
鳥羽高	充足率 96.3%	82.5%	80.0%	73.8%	57.5%
	入学者数/定員 77 / 80	66 / 80	64 / 80	59 / 80	46 / 80
志摩高	充足率 90.8%	92.5%	89.2%	96.3%	63.8%
	入学者数/定員 109 / 120	111 / 120	107 / 120	77 / 80	51 / 80
水産高	充足率 100.0%	100.0%	87.5%	71.3%	76.3%
	入学者数/定員 80 / 80	80 / 80	70 / 80	57 / 80	61 / 80
紀南高	充足率 84.2%	66.7%	77.5%	71.3%	90.0%
	入学者数/定員 101 / 120	80 / 120	62 / 80	57 / 80	72 / 80

#### 4 小規模校活性化の総括的な検証

現計画の最終年度である令和3年度に小規模校の活性化に係る総括的な検証を行い、その後のあり方を検討することとしています。

総括的な検証は、活性化の取組状況、生徒の進路実現状況、入学者の状況の3つの項目について、現在、学校別活性化協議会において進めています。

- 各項目についての検証をより効果的に行うとともに、より多くの地域の学校関係者の方々に参画いただけるようにするため、学校別活性化協議会を2回に分けて開催し、検証を進めています。現時点の各協議会における検証内容の概観は次のとおりです。

##### (活性化の取組について)

- ・ 各地域の支援を得ながら、地域や産業の担い手育成や若者の地域への定着につながるよう、地域を学びの場とした課題解決型学習に取り組むなど、地域と高校の連携・協働体制を構築することができ、生徒の学習環境の向上に繋がっている。
- ・ 広報誌への記事掲載、HPやSNSでの情報発信、小学校への出前講座や交流活動等、さまざまな広報活動に加え、生徒による地域でのボランティア活動や地域イベント等での地域活性化に貢献する課外活動により、地域における小規模校への理解は少しずつ進んでいる。
- ・ 様々な取組の中には、生徒のニーズと必ずしもマッチしないものもあり、継続的な取組とするための改善が必要な取組もある。

##### (生徒の進路実現について)

- ・ 多くの学校では継続的な学び直しの取組による基礎学力の定着等により生徒の進路実現につなげているものの、地元企業への就職状況等に目立った変化はなかった。
- ・ 小規模校では、希望者が少ないために大学進学のための専門性が高い授業が開設しにくく、また、教員数が少ないために専門性が高い教員を配置しにくい状況にある。そのような状況下でも生徒の個別の希望に対応する補習等によって、自らの将来に対する目的意識を持ちながら大学へ進学する生徒の進路が実現された。

##### (入学者の状況について)

- ・ 地域の中学校卒業者の大幅な減少の影響もあり、入学者の状況については、活性化に取り組む前よりも厳しい状況となっている。令和3年度に定員を満たしている小規模校は1校のみであり、活性化期間前の平成29年度と令和3年度を比較すると、平成29年度の小規模校の総募集定員880人に対して総入学者786人で募集定員数に対する入学者数の充足率は約89.3%であったが、令和3年度では定員745人に対して入学者574人で充足率は約77.0%に低下しており、ほとんどの地域において、活性化の取組が志願者の増加にはつながっていない状況となっている。

- また、各地域の地元中学校からの進学率の推移をみると、広範囲から生徒が集まる昴学園高校、白山高校、水産高校、鳥羽高校では進学率は多少下降傾向である。通学地域が限られる地域の高校は、あけぼの学園高校は令和3年度唯一欠員がない小規模校で、伊賀市内からの進学率も上昇傾向であり、飯南高校も地元からの進学率は上昇傾向にある。一方、志摩高校は志摩市内からの進学率は大きく下降し、南伊勢高校南勢校舎、度会校舎は年度により大きく変動しており、上昇傾向とは言えない。また、紀南高校も地元からの進学率は下降傾向にある。
- 県外生の入学をめざして、全ての小規模校において「保護者の転住を伴わない県外からの志願者の受入制度」を設けたが、この制度を含めて県外からの入学が実現したのは、白山高校、水産高校、紀南高校、昴学園高校、あけぼの学園高校である。県外生の募集に関しては、下宿等の環境整備、市町の支援状況等の受け入れ態勢が課題である。

#### (その他 学校の状況について)

- 小規模校では教員数は少ないが、生徒数も少ないこともあって、きめ細かな指導や個々の生徒にあった丁寧な対応ができる。一方で、教科指導では専門性が限られて開設できない科目があったり、部活動の開設数も1校平均13.5～14.5部と少なく、団体種目の活動を多く設けることが難しくなったりするなど、生徒にとって高校の魅力が低下する原因の一つになっている。

また、学級減に伴って教員配置数が減少する中、他校では複数で担当する校務分掌を一人の教員が担当したり、複数の係を兼務したりするなど、教員一人が担う業務の種類が多くなっている。また、一教科の担当教員が一人となるなど、特に若い教員にとっては研修機会の確保が十分に取れない状況となっている。

今後さらなる少子化に伴って学校の小規模化が進むと、生徒の希望に沿った選択科目の設置や幅広い部活動ができないなど、現在の教育内容を維持することは困難となることが想定される。



### 【小規模校（9校10校舎）全体の入学者の状況】

	H28年度	H29年度	H30年度	H31年度	R2年度	R3年度
総募集定員数(人)	880	880	880	840	760	745
総入学者数(人)	782	786	747	717	595	574
総欠員数(人)	98	94	133	123	165	171
充足率	88.9%	89.3%	84.9%	85.4%	78.3%	77.0%

### 【小規模校 地元中学からの進学と県外からの入学生の状況】

入学年度	白山高校(地元中学:一志、白山、美杉、嬉野)			白山高校 県外入学生
	4中学出身者		4中学卒業生数	
H29	26	6.6%	393	4
H30	27	6.7%	405	2
H31	15	4.0%	376	7
R2	19	4.7%	406	8
R3	22	5.7%	383	2

入学年度	飯南高校(地元中学:飯南、飯高)			飯南高校 県外入学生
	2中学出身者		2中学卒業生数	
H29	20	28.2%	71	0
H30	15	25.9%	58	0
H31	16	29.1%	55	0
R2	19	33.9%	56	0
R3	17	31.5%	54	0

入学年度	昂学園高校(地元中学:大台、宮川)			昂学園高校 県外入学生
	2中学出身者		2中学卒業生数	
H29	10	13.2%	76	0
H30	9	10.8%	83	0
H31	11	16.2%	68	0
R2	10	13.9%	72	3
R3	8	13.3%	60	9

入学年度	南伊勢高南勢(地元中学:南勢、南島)			南勢校舎 県外入学生
	2中学出身者		2中学卒業生数	
H29	5	5.6%	89	0
H30	20	25.3%	79	0
H31	4	6.3%	64	0
R2	13	25.5%	51	0
R3	7	11.9%	59	0

入学年度	南伊勢高度会(地元中学:度会)			度会校舎 県外入学生
	度会中学出身者		度会中学卒業生数	
H29	19	24.7%	77	0
H30	6	7.6%	79	0
H31	21	24.4%	86	0
R2	9	12.9%	70	0
R3	8	14.5%	55	0

入学年度	鳥羽高校(地元中学:鳥羽市内中学)			鳥羽高校 県外入学生
	鳥羽市内中学出身者		鳥羽市内中学卒業生数	
H29	23	12.8%	180	0
H30	25	13.8%	181	0
H31	9	6.4%	140	0
R2	18	13.6%	132	1
R3	14	9.4%	149	0

入学年度	志摩高校(地元中学:志摩市内中学)			志摩高校 県外入学生
	志摩市内中学出身者		志摩市内中学卒業生数	
H29	99	22.0%	449	0
H30	98	22.7%	432	0
H31	90	22.5%	400	0
R2	72	18.5%	389	0
R3	47	15.0%	313	0

入学年度	水産高校(地元中学:志摩市内中学)			水産高校 県外入学生
	志摩市内中学出身者		志摩市内中学卒業生数	
H29	67	14.9%	449	3
H30	54	12.5%	432	4
H31	48	12.0%	400	4
R2	40	10.3%	389	2
R3	37	11.8%	313	8

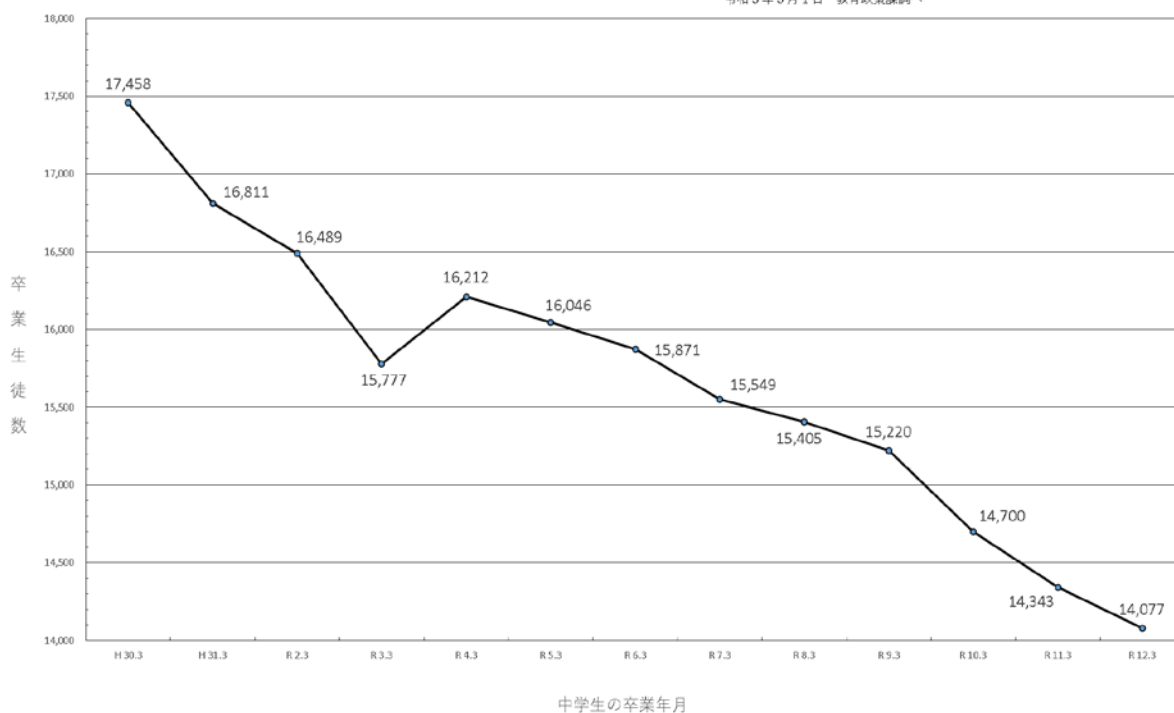
入学年度	あけぼの学園高校(地元中学:伊賀市内中学)			あけぼの 学園高校 県外入学生
	伊賀市内中学出身者		伊賀市内中学卒業生数	
H29	31	4.1%	761	0
H30	36	4.8%	748	0
H31	41	5.5%	743	1
R2	50	6.8%	735	1
R3	44	6.1%	724	0

入学年度	紀南高校(地元中学:南牟婁郡内中学)			紀南高校 県外入学生
	南牟婁郡内中学出身者		南牟婁郡内中学卒業生数	
H29	68	32.7%	208	5
H30	56	30.1%	186	2
H31	34	19.8%	172	1
R2	35	24.5%	143	5
R3	42	26.8%	157	2

- それぞれの学校別活性化協議会の検証結果については、今年度8月から9月にかけて開催予定の地域別活性化協議会（伊賀、伊勢志摩、紀南）において共有し、そこでの議論もふまえながら地域における今後の高校のあり方について検討を進めていきます。
- また、地域協議会や県立高等学校みらいのあり方検討委員会でも意見が出されているように、中学校卒業予定者数が今後さらに減少していく中で、それぞれの小規模校がこれまで地道に取り組み根付かせてきた、地域を題材とした探究的な学習活動をいかにして継承・発展させていくのかという点についても、今後の高校のあり方とあわせて検討していく必要があります。

三重県中学校卒業生数の推移と予測（含社会増減）

令和3年5月1日 教育政策課調べ



【三重県 中学校卒業生数の推移と予測（含社会増減）】

令和3年5月1日 教育政策課調べ

		H 30.3 卒業	H 31.3 卒業	R 2.3 卒業	R 3.3 卒業	R 4.3 現中3	R 5.3 現中2	R 6.3 現中1	R 7.3 現小6	R 8.3 現小5	R 9.3 現小4	R 10.3 現小3	R 11.3 現小2	R 12.3 現小1
桑名	卒業生数	2,021	2,048	1,986	1,941	1,968	1,983	1,951	1,979	1,918	1,920	1,868	1,844	1,808
	前年度対比		27	-62	-45	27	15	-32	28	-61	2	-52	-24	-36
	R3.3対比					27	42	10	38	-23	-21	-73	-97	-133
四日市	卒業生数	3,844	3,637	3,578	3,418	3,636	3,442	3,433	3,418	3,503	3,373	3,335	3,248	3,110
	前年度対比		-207	-59	-160	218	-194	-9	-15	85	-130	-38	-87	-138
	R3.3対比					218	24	15	0	85	-45	-83	-170	-308
小計	卒業生数	5,865	5,685	5,564	5,359	5,604	5,425	5,384	5,397	5,421	5,293	5,203	5,092	4,918
	前年度対比		-180	-121	-205	245	-179	-41	13	24	-128	-90	-111	-174
	R3.3対比					245	66	25	38	62	-66	-156	-267	-441
鈴鹿	卒業生数	2,553	2,458	2,416	2,259	2,413	2,219	2,427	2,253	2,221	2,207	2,071	2,103	2,087
	前年度対比		-95	-42	-157	154	-194	208	-174	-32	-14	-136	32	-16
	R3.3対比					154	-40	168	-6	-38	-52	-188	-156	-172
津	卒業生数	2,684	2,614	2,686	2,586	2,516	2,666	2,615	2,496	2,503	2,443	2,399	2,360	2,314
	前年度対比		-70	72	-100	-70	150	-51	-119	7	-60	-44	-39	-46
	R3.3対比					-70	80	29	-90	-83	-143	-187	-226	-272
伊賀	卒業生数	1,549	1,503	1,449	1,429	1,440	1,398	1,385	1,356	1,315	1,332	1,285	1,237	1,192
	前年度対比		-46	-54	-20	11	-42	-13	-29	-41	17	-47	-48	-45
	R3.3対比					11	-31	-44	-73	-114	-97	-144	-192	-237
小計	卒業生数	6,786	6,575	6,551	6,274	6,369	6,283	6,427	6,105	6,039	5,982	5,755	5,700	5,593
	前年度対比		-211	-24	-277	95	-86	144	-322	-66	-57	-227	-55	-107
	R3.3対比					95	9	153	-169	-235	-292	-519	-574	-681
松阪	卒業生数	2,003	1,931	1,924	1,801	1,842	1,931	1,847	1,856	1,791	1,772	1,742	1,560	1,607
	前年度対比		-72	-7	-123	41	89	-84	9	-65	-19	-30	-182	47
	R3.3対比					41	130	46	55	-10	-29	-59	-241	-194
伊勢	卒業生数	2,192	2,079	1,966	1,827	1,879	1,927	1,737	1,768	1,723	1,737	1,598	1,563	1,612
	前年度対比		-113	-113	-139	52	48	-190	31	-45	14	-139	-35	49
	R3.3対比					52	100	-90	-59	-104	-90	-229	-264	-215
尾鷲	卒業生数	281	237	228	242	248	218	212	192	192	203	162	170	143
	前年度対比		-44	-9	14	6	-30	-6	-20	0	11	-41	8	-27
	R3.3対比					6	-24	-30	-50	-50	-39	-80	-72	-99
熊野	卒業生数	331	304	256	274	270	262	264	231	239	233	240	258	204
	前年度対比		-27	-48	18	-4	-8	2	-33	8	-6	7	18	-54
	R3.3対比					-4	-12	-10	-43	-35	-41	-34	-16	-70
小計	卒業生数	4,807	4,551	4,374	4,144	4,239	4,338	4,060	4,047	3,945	3,945	3,742	3,551	3,566
	前年度対比		-256	-177	-230	95	99	-278	-13	-102	0	-203	-191	15
	R3.3対比					95	194	-84	-97	-199	-199	-402	-593	-578
県内合計	卒業生数	17,458	16,811	16,489	15,777	16,212	16,046	15,871	15,549	15,405	15,220	14,700	14,343	14,077
	前年度対比		-647	-322	-712	435	-166	-175	-322	-144	-185	-520	-357	-266
	R3.3対比					435	269	94	-228	-372	-557	-1,077	-1,434	-1,700

都道府県	学校規模(学級数)											※上段が令和3年度、下段が平成28年度			
	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11~	全学校数	全クラス数	1校平均	
北海道	44 43	31 34	21 14	27 36	19 14	18 21	18 14	11 22				189 199	694 776	3.67 3.90	▲ 0.23
青森	2 2	5 11	6 2	11 12	8 7	17 12	6 6					43 52	192 227	4.47 4.37	0.10
岩手	9 4	14 13	6 10	11 6	11 14	7 11	4 5					62 63	224 255	3.61 4.05	▲ 0.44
宮城		4 5	11 11	10 6	8 10	15 12	11 16	4 4	1 1			64 65	329 343	5.14 5.28	▲ 0.14
秋田		6 6	7 8	7 7	9 8	12 15	1 1					42 45	185 201	4.40 4.47	▲ 0.07
山形	3 1	4 3	10 10	6 6	14 14	2 2	4 4		1 1			41 41	165 180	4.02 4.39	▲ 0.37
福島	6	16 22	5 6	15 9	13 12	15 13	7 13	5				77 80	317 367	4.12 4.59	▲ 0.47
茨城		3 1	15 10	14 19	13 17	26 22	10 14	8 10				89 93	462 503	5.19 5.41	▲ 0.22
栃木		1	3	25 16	14 22	8 12	5 6	3 3				59 59	288 312	4.88 5.29	▲ 0.41
群馬		9 9	6 7	13 12	13 10	8 10	8 7	1 7				58 62	265 302	4.57 4.87	▲ 0.30
埼玉		3 1	4 3	17 7	25 14	18 36	19 19	24 23	23 26	4 4	1 1	134 134	870 936	6.49 6.99	▲ 0.50
千葉		1 1	11 8	23 18	12 11	20 21	14 11	34 29	3 21		1 1	119 121	722 796	6.07 6.58	▲ 0.51
東京	3 3	2 2	4 1	18 11	48 27	38 57	33 28	29 44	2 5			177 178	1,040 1,124	5.88 6.31	▲ 0.43
神奈川			7 5	14 6	26 28	33 46	29 27	19 19	6 10			134 141	948 1,027	7.07 7.28	▲ 0.21
新潟	6 1	15 12	12 8	17 20	12 11	5 7	5 10	4 7	3 3			79 80	324 389	4.10 4.86	▲ 0.76
富山			4 7	11 11	7 6	5 6	5 6	1 1				33 37	164 181	4.97 4.89	0.08
石川		7 7	8 3	9 6	2 9	4 2	2 3	3 3	1 3	2 2		38 38	175 185	4.61 5.16	▲ 0.55
福井			1 1	7 7	4 8	2 2	2 2	3 3	1 4			24 26	142 154	5.92 5.92	▲ 0.00
山梨			1 3	4 2	6 5	8 8	4 6	2 3				25 27	141 156	5.64 5.78	▲ 0.14
長野		12 4	11 14	11 12	18 11	11 18	9 12	3 5				75 76	344 385	4.59 5.07	▲ 0.48
岐阜		2 1	7 7	12 11	12 8	13 11	5 9	4 7	6 4		3 3	61 61	332 358	5.44 5.87	▲ 0.43
静岡		6 1	6 2	4 9	29 15	9 24	15 12	6 11	3 5	2 2		83 85	445 509	5.36 5.99	▲ 0.63
愛知		7 3	5 2	9 7	16 12	36 32	20 22	31 29	18 30	3 7		145 146	941 1,024	6.49 7.01	▲ 0.52
三重	2 1	7 6	2 3	7 3	13 6	7 14	10 5	5 12	4 4			54 54	271 315	5.02 5.83	▲ 0.81
滋賀		1 1	10 7	5 5	9 3	8 13	4 5	3 5	4 2	2 2	1 1	44 44	233 260	5.30 5.91	▲ 0.61
京都			6 7	4 1	8 9	8 7	11 9	3 6	4 7			44 46	259 286	5.89 6.22	▲ 0.33
大阪				20 6	61 30	24 29	18 34	6 19		16		129 135	832 1,018	6.45 7.54	▲ 1.09
兵庫	5 4	11 6	10 11	12 5	29 19	25 27	22 26	11 22	1 7	0		126 127	651 747	5.17 5.88	▲ 0.71
奈良		2 1	1 4	1 1	2 2	4 9	3 2	4 7	4 4	2 2		28 32	182 208	6.50 6.50	0.00
和歌山			4 2	6 5	7 5	4 7	6 3	1 5	1 1	1 1	1 1	29 29	156 176	5.38 6.07	▲ 0.69
鳥取		1 1	5 5	6 4	5 4	1 7	4 3	4 2				22 22	100 105	4.55 4.77	▲ 0.22
島根	1 1	8 8	7 7	10 9	3 2	2 3	2 3	1 1				34 34	127 131	3.74 3.85	▲ 0.11
岡山			10 1	10 16	6 8	7 3	6 8	11 11	1 4			51 51	281 305	5.51 5.98	▲ 0.47
広島	13 10	13 11	4 5	12 9	11 14	11 11	10 10	4 8				78 78	322 353	4.13 4.53	▲ 0.40
山口		2 5	12 10	17 20	4 4	7 4	3 4	1 2				46 49	199 208	4.33 4.24	0.09
徳島		2 5	1 1	5 3	8 6	3 6	7 3	5 5			1 1	27 30	145 163	5.37 5.43	▲ 0.06
香川			2 3	7 8	6 4	4 5	7 6	3 5				29 31	161 173	5.55 5.58	▲ 0.03
愛媛	1 1	5 10	10 10	9 8	4 4	4 3	6 7	3 4	5 5			47 52	232 247	4.94 4.75	0.19
高知		12 10	2 2	5 8	3 3	3 3	4 4	1 1				30 31	119 127	3.97 4.10	▲ 0.13
福岡			5 1	27 20	18 23	11 13	9 8	6 11	8 7	6 8	1 2	91 93	533 585	5.86 6.29	▲ 0.43
佐賀		4 2	8 10	7 7	4 6	8 8	1 3					32 36	135 161	4.22 4.47	▲ 0.25
長崎	6 4	9 9	11 9	8 10	3 4	9 7	5 8	3 3				54 54	217 231	4.02 4.28	▲ 0.26
熊本		2 2	5 5	7 10	8 10	7 7	8 9	1 1	5 5	4 4		47 48	278 287	5.91 5.98	▲ 0.07
大分	2 1	2 2	1 1	12 11	11 8	7 6	1 5	2 3				38 36	177 186	4.66 5.17	▲ 0.51
宮崎	1 1		6 7	5 7	7 6	7 8	5 4	1 1	3 3			35 37	186 194	5.31 5.24	0.07
鹿児島		17 12	16 16	7 11	2 3	5 5	3 2	10 2	1 1			61 61	260 272	4.26 4.46	▲ 0.20
沖縄		2 1	5 4	5 4	9 9	10 9	7 9	11 9	7 5	2 5	1 1	58 59	364 375	6.28 6.36	▲ 0.08
計	104 78	248 231	307 271	480 435	530 442	550 590	398 447	307 412	133 192	24 71	4 8	3,085 3,177	16,129 17,812	5.23 5.61	▲ 0.38

※ 本県の令和3年度の数値について、校舎制を採用している南伊勢高校は、南勢校舎と度会校舎をそれぞれ1学級規模として計上。  
 ※ 本県の平成28年度の数値について、校舎制を採用している南伊勢高校は、南勢校舎を1学級規模、度会校舎を2学級規模として計上。  
 ※ 「全国公立高等学校第1学年定員等状況(学級数別学校数:本校)」(富山県教育委員会まとめ)を基礎に加工

## 【第2回教育改革推進会議（7/20）資料】

## 県立高等学校（全日制）における学級数の状況

【平成29年度入学生】

地域名	2学級	3学級	4学級	5学級	6学級	7学級	8学級	9学級	学校数
桑員			桑名工業(工)		桑名北(普)		桑名西(普) いなべ総合学園(総)	桑名(普・理・看)	5
四日市			菰野(普)		朝明(普・福) 四日市四郷(普) 四日市農芸(農・家) 四日市中央工業(工)	四日市西(普) 四日市商業(商)	川越(普・英) 四日市南(普) 四日市工業(工)	四日市(普)	11
鈴鹿・亀山			石薬師(普) 飯野(他・英)		白子(普・家) 稲生(普・体) 亀山(普・情・家)		神戸(普・理)		6
津		白山(普・商)			津工業(工) 久居(普) 久居農林(農・家)	津商業(商)	津西(普・国) 津東(普)	津(普)	8
松阪	飯南(総) 昴学園(総)			松阪商業(商・国)	松阪工業(工) 相可(普・農・家)		松阪(普・理)		6
伊勢志摩	鳥羽(総) 水産(水)	南伊勢(普) 志摩(普)		伊勢工業(工) 宇治山田商業(商) 明野(農・家・福)	宇治山田(普)		伊勢(普)		9
伊賀	あけぼの学園(総)			名張(総)		上野(普・理) 伊賀白鳳 (工・商・農・福)	名張青峰(普)		5
東紀州		紀南(普)		木本(普・総)	尾鷲(普・商・工)				3
学校数	5	4	4	6	15	5	11	3	53



【令和3年度入学生】

地域名	2学級	3学級	4学級	5学級	6学級	7学級	8学級	9学級	学校数
桑員			桑名工業(工)	桑名北(普)		桑名西(普) いなべ総合学園(総)	桑名(普・理・看)		5
四日市			菰野(普)	四日市中央工業(工) 朝明(普・福) 四日市四郷(普) 四日市農芸(農・家)	四日市西(普) 四日市商業(商)	川越(普・英) 四日市工業(工)	四日市(普) 四日市南(普)		11
鈴鹿・亀山		石薬師(普)	飯野(他・英)	稲生(普・体) 亀山(普・情・家)	白子(普・家)	神戸(普・理)			6
津		白山(普・商)		久居(普)	津工業(工) 津商業(商) 久居農林(農・家)	津東(普)	津(普) 津西(普・国)		8
松阪	飯南(総) 昴学園(総)		松阪商業(商・国)	松阪工業(工) 相可(普・農・家)		松阪(普・理)			6
伊勢志摩	南伊勢(普) 鳥羽(総) 志摩(普) 水産(水)		伊勢工業(工) 宇治山田商業(商) 明野(農・家・福)	宇治山田(普)		伊勢(普)			9
伊賀	あけぼの学園(総)			名張(総)	名張青峰(普)	上野(普・理) 伊賀白鳳 (工・商・農・福)			5
東紀州	紀南(普)		木本(普・総)	尾鷲(普・商・工)					3
学校数	8	2	8	13	7	10	5	0	53

三重県立学校の所在地

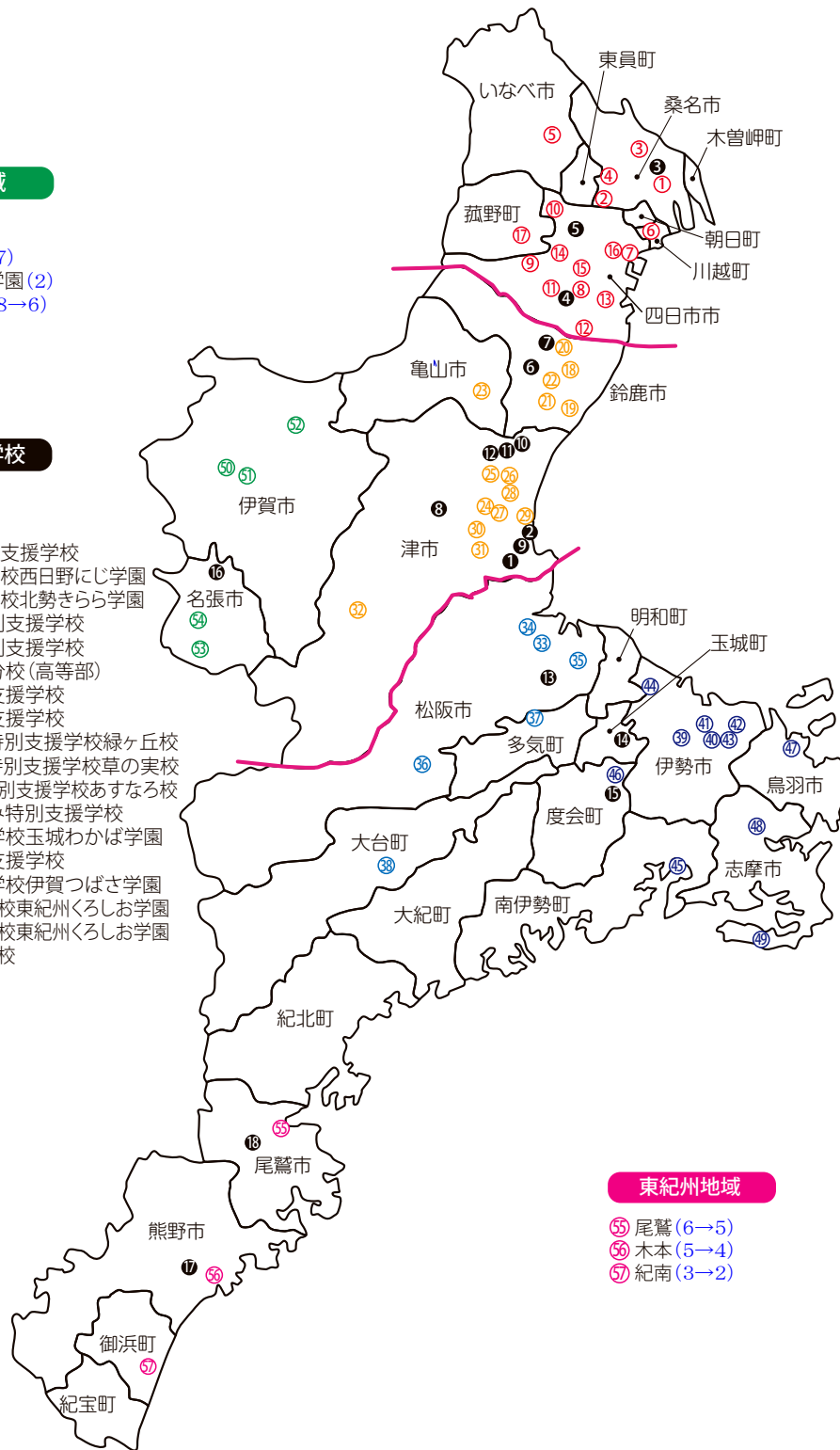
【第2回教育改革推進会議（7/20）資料】

伊賀地域

- ⑤⑩ 上野(7)
- ⑤⑪ 伊賀白鳳(7)
- ⑤⑫ あげぼの学園(2)
- ⑤⑬ 名張青峰(8→6)
- ⑤⑭ 名張(5)

特別支援学校

- ① 盲学校
- ② 聾学校
- ③ くわな特別支援学校
- ④ 特別支援学校西日野にし学園
- ⑤ 特別支援学校北勢さらら学園
- ⑥ 杉の子特別支援学校
- ⑦ 杉の子特別支援学校  
石薬師分校(高等部)
- ⑧ 稲葉特別支援学校
- ⑨ 城山特別支援学校
- ⑩ かがやき特別支援学校緑ヶ丘校
- ⑪ かがやき特別支援学校草の実校
- ⑫ かがやき特別支援学校あすなろ校
- ⑬ 松阪あゆみ特別支援学校
- ⑭ 特別支援学校玉城わかば学園
- ⑮ 度会特別支援学校
- ⑯ 特別支援学校伊賀つばさ学園
- ⑰ 特別支援学校東紀州くろしお学園
- ⑱ 特別支援学校東紀州くろしお学園  
おわせ分校



北勢地域

- ① 桑名(9→8)
- ② 桑名西(8→7)
- ③ 桑名北(6→5)
- ④ 桑名工業(4)
- ⑤ いなべ総合学園(8→7)
- ⑥ 川越(8→7)
- ⑦ 四日市(9→8)
- ⑧ 四日市南(8)
- ⑨ 四日市西(7→6)
- ⑩ 朝明(6→5)
- ⑪ 四日市四郷(6→5)
- ⑫ 四日市農芸(6→5)
- ⑬ 四日市工業(8→7)
- ⑭ 四日市中央工業(6→5)
- ⑮ 四日市商業(7→6)
- ⑯ 北星
- ⑰ 菟野(4)

中勢地域

- ⑱ 神戸(8→7)
- ⑲ 白子(6)
- ⑳ 石薬師(4→3)
- ㉑ 稲生(6→5)
- ㉒ 飯野(4)
- ㉓ 亀山(6→5)
- ㉔ 津(9→8)
- ㉕ 津西(8)
- ㉖ 津東(8→7)
- ㉗ 津工業(6)
- ㉘ 津商業(7→6)
- ㉙ みえ夢学園
- ㉚ 久居(6→5)
- ㉛ 久居農林(6)
- ㉜ 白山(3)

松阪地域

- ⑳ 松阪(8→7)
- ㉑ 松阪工業(6→5)
- ㉒ 松阪商業(5→4)
- ㉓ 飯南(2)
- ㉔ 相可(6→5)
- ㉕ 昴学園(2)

東紀州地域

- ⑤⑤ 尾鷲(6→5)
- ⑤⑥ 木本(5→4)
- ⑤⑦ 紀南(3→2)

南勢志摩地域

- ⑤⑧ 宇治山田(6→5)
- ⑤⑨ 伊勢(8→7)
- ⑤⑩ 伊勢工業(5→4)
- ⑤⑪ 宇治山田商業(5→4)
- ⑤⑫ 伊勢まなび
- ⑤⑬ 明野(5→4)
- ⑤⑭ 南伊勢(南勢校舎) (1→2)
- ⑤⑮ 南伊勢(度会校舎) (2→2)
- ⑤⑯ 鳥羽(2)
- ⑤⑰ 志摩(3→2)
- ⑤⑱ 水産(2)

※ 全日制高校の校名の右に記載した括弧書きの数字は、1学年当たり学級数（平成29年度→令和3年度）を表す。

県立高等学校の教育課程による分類 【令和3年4月入学生】

全日制課程

※【単】は単位制

普通科	桑名、桑名西、桑名北、川越、四日市、四日市南、四日市西、朝明、四日市四郷、菰野、神戸、白子、石薬師、稻生、亀山、津、津西【単】、津東【単】、久居【単】、白山、松阪、相可【単】、宇治山田、伊勢、南伊勢(南勢、度会校舎)、志摩、上野、名張青峰【単】、尾鷲【単】、木本、紀南【単】
	四日市(国際科学)、四日市南(数理科学)、四日市西(比較文化・歴史、数理情報)、四日市四郷(スポーツ科学)、白子(文化教養)、久居(スポーツ科学)【単】、伊勢(国際科学)、名張青峰(文理探究)【単】、尾鷲(プログラミング)【単】
	四日市農芸、久居農林、相可、明野、伊賀白鳳(生物資源・フードシステム)【単】
	桑名工業、四日市工業、四日市中央工業、津工業、松阪工業、伊勢工業、伊賀白鳳(機械・電子機械、建築デザイン)【単】、尾鷲(システム工学)【単】
	四日市商業、津商業、白山(情報コミュニケーション)、宇治山田商業、松阪商業【単】、伊賀白鳳(経営)【単】、尾鷲(情報ビジネス)【単】
	水産(海洋・機関、水産資源)
	四日市農芸(生活文化)、白子(生活創造)、亀山(総合生活)、久居農林(生活デザイン)、相可(食物調理)、明野(生活教養)
	桑名(衛生看護)
	亀山(システムメディア)
	朝明(ふくし)、明野(福祉)、伊賀白鳳(ヒューマンサービス)【単】
桑名(理数)、川越(国際文理)、神戸(理数)、稻生(体育)、飯野(英語コミュニケーション・応用デザイン)、津西(国際科学)【単】、松阪(理数)、松阪商業(国際教養)【単】、上野(理数)	
いなべ総合学園、飯南、昴学園、鳥羽、あけぼの学園、名張、木本 【すべて単位制】	
コース制	
農業	
工業	
商業	
水産	
家庭	
看護	
情報	
専門学科	
普通科	
総合学科	

定時制課程

普通科	桑名、北星【単】、飯野【単】、松阪工業【単】、伊勢まなび(昼間部)【単】、上野、名張【単】、尾鷲【単】、木本【単】
専門学科	北星(情報ビジネス)【単】、四日市工業【単】、伊勢まなび(夜間部)ものづくり工学)【単】
総合学科	みえ夢学園【単】

通信制課程

普通科	北星【単】松阪【単】
-----	------------



## 令和3年度第2回教育改革推進会議概要

日時 令和3年7月20日(火) 14時00分～16時00分

### 【これからの県立高等学校活性化の基本的な考え方について】

- 「(1)新しい時代を生き抜いていく力の育成」と「(2)新たな時代に対応するために必要な力を育むための学びの推進」について、(1)には今後の高校教育で育んでいきたい力といった大きな方向性について書かれ、(2)では具体的にどのように進めていくのかが書かれている。(1)と(2)いずれも目指しているのは新しい時代を生きていく力を育成することである点をふまえて、両項目の関係性が分かりやすくなるよう記述を整理すべきではないか。
- 学校教育は「生徒一人ひとりの個別最適な学び」と「生徒同士の協働的な学び」がセットになってはじめて成立するものである。この点、「(2) 新たな時代に対応するために必要な力を育むための学びの推進」のア)の記述「全ての生徒における」について、「生徒同士の、生徒間の」といったニュアンスが弱いことから表現を工夫すべきではないか。
- 「(5)特色・魅力ある教育の実現に向けた学校経営と教職員の資質向上」について、学校では校長や教頭といった少数の管理職が大勢の教職員をマネジメントしているが、組織としての指揮命令をより徹底するためには、学校内での役割分担をしっかり行っていくという視点が必要ではないか。
- 「基本的な考え方」は総花的に記述されているが、これをふまえて具体的な取組を検討する段階にあっては、次期計画の計画期間において重点的あるいは優先的に取り組むことは何かといった整理が必要である。

### 【県立高校の規模と配置について】

- これまで学校別活性化協議会を中心に高校活性化に向けた議論を積み重ねてきた中で、それぞれの協議会では、子どもたちの学びを維持していくには現状のままでは困難だといった意見が徐々に増えてきている。紀南高校協議会でも意見が出されているが、そろそろ県教委から今後の案を出して、それをもとに学校・地域で議論を進めていくフェーズに入ってきたのではないか。
- 高校統合も含めた今後の高校のあり方を検討するにあたっては、一校一校を個別に見て判断するのではなく、地域の中での各校の関係性等をふまえた地域一体での議論が必要ではないか。



- 子どもたちの学びにとって一定の学校規模は必要であるが、望ましい学校規模であるかどうかについては、「1学年3学級から8学級」よりもう少し大きな規模が良いのではないかと検討も必要ではないか。
- その高校が地域になくってはならないものかどうかを考えるにあたっては、どれだけの卒業生が高校卒業後に地域に残り、あるいは大学卒業後に地域に戻って地域を支える人材となっているか、また、その高校が地元の子どもたちから選ばれ、地元からの入学率が一定あるかという2つの視点で見ていくことが必要だと考える。
- 昨年度実施した高校生を対象としたアンケートの結果を見ても、多様な価値観の中でより良い人間関係を築けているということが子どもたちが高校生活に満足感を得る大きな要素となっていることがわかる。こうしたことをふまえると、子どもたちが一定の人数の中で学んでいけるようにしてあげたいと感じる。
- 小規模校は生徒一人ひとりに手厚くできる一方で、教職員が少ないために校務分担の負担が大きく研修機会も確保しにくい、部活動も制限されてくるといった面がある。高校だけでなく小中学校においても、集団の中で人間性や社会性を育むといった学校の機能を果たしにくい状況が出てきている中で、子どもたちの真の学びを考えた場合、学校に一定の規模は必要であると考え。ただし、地域における今後の高校のあり方を検討するにあたっては、山間部等通学困難な地域の子どもたちのこともしっかり考えていく必要がある。
- 子どもたちにとって、人との関りの中で切磋琢磨して力を付けていくということはとても大事なことであるので、高校には一定以上の規模が必要である。

小規模校におけるきめ細かい指導等に魅力を感じて入学してくる子どもたちが一定数いると考えられる中、小規模校を他校と統合して一定規模の新たな学校を作る場合においては、こうした小規模校の学びを求める子どもたちのニーズに応える必要がある。こうした視点も考慮しながら、統合の判断にあたっては十分な検討を重ね、慎重に行われるべきである。
- 新しい時代を生きていくための力の育成やそのための学びの推進のためには、望ましい学校規模とあわせて学級規模についても検討していくことが必要ではないか。
- 10年、20年先を考えると都市部の高校の小規模化についても考えていく必要があることから、都市部の高校も含め三重県全体でこれからの高校がどうあるべきか、中学校卒業生数の減少にどのように対応していくのか今後も継続的に議論していく必要がある。

- 小学生や中学生の保護者の中からは、子どもたちにはドッジボールやソフトボールをさせたやりたい、そうしたことができるように学校には一定の規模が必要であると思う一方で、学校の統合は地元の方々からはなかなか受け入れられないものだと声も聞く。地域に学校は必要であるが、しかし、そのために子どもたちの学びが阻害されてしまうことはあってはならないことだと思っている。
  
- 本日の議論をふまえると、子どもたちの学びにとっては一定の学校規模が必要であり、そのためには、高校統合もやむを得ないと感じる。こうした方向での検討が地域協議会等の場で今後必要であるが、その際には、県教委から当該地域の高校のあり方についてのたたき台を示すなど、地域の方々で議論しやすくなるようなやり方が求められるのではないかと。  
また、県教委においては、地元中学校からの進学希望や定員充足の状況、通学困難な地域への配慮など統合を検討していくための考え方を考えていく必要があるのではないかと。
  
- それぞれの小規模校にあってはこれまで活性化に一生懸命に取り組んできていただいた。しかしながら、入学状況を見るとほとんどの高校が地元の子どもたちから選んでもらえる状況にはなっていないのが現状である。がんばって取り組んできたのになぜこのような結果となっているのか。地域に学校を残したいと考えている地元の方々と、子どもが志望校の選択に迫られている親・保護者との間の考え方の相違、世代間の意見の相違があるのではないかと。こうしたことについても、当該地域の高校のあり方について今後検討を進めていくにあたって考慮すべきことである。
  
- 高校統合の方向は致し方ないと思うが、保護者は例えば子どもの送迎など様々な負担も見込んでいるので、統合に際しては丁寧に保護者へ説明されるよう進めてほしい。同様に、毎年度の県立高校募集定数についても、子どもたちの進路選択に大きな影響を及ぼすものであることから丁寧な説明が必要である。
  
- 三重県の未来のために、一人ひとりの子どもたちに高校での学びを通してこれからの時代に必要な力を育むこと、また、そうした学びができる学校のあるべき姿を考え実現していくことが県立高校活性化の本来の目的であることを忘れずに今後の議論を進めていくことが求められる。

伊勢志摩地域 中学校卒業生数の推移と予測 (含社会増減)

資料6

令和3年5月1日 教育政策課調べ

	H 15.3 卒業	H 30.3 卒業	H 31.3 卒業	R 2.3 卒業	R 3.3 卒業	R 4.3 現中3	R 5.3 現中2	R 6.3 現中1	R 7.3 現小6	R 8.3 現小5	R 9.3 現小4	R 10.3 現小3	R 11.3 現小2	R 12.3 現小1
伊勢市	卒業生数	1,196	1,170	1,087	1,057	1,083	1,126	981	1,034	1,000	1,029	988	899	969
	前年度対比		-26	-83	-30	26	43	-145	53	-34	29	-41	-89	70
	R3.3対比					26	69	-76	-23	-57	-28	-69	-158	-88
度会郡	卒業生数	383	369	358	308	315	336	313	322	292	303	265	268	277
	前年度対比		-14	-11	-50	7	21	-23	9	-30	11	-38	3	9
	R3.3対比					7	28	5	14	-16	-5	-43	-40	-31
鳥羽市	卒業生数	181	140	132	149	143	122	107	119	111	107	98	114	86
	前年度対比		-41	-8	17	-6	-21	-15	12	-8	-4	-9	16	-28
	R3.3対比					-6	-27	-42	-30	-38	-42	-51	-35	-63
志摩市	卒業生数	432	400	389	313	338	343	336	293	320	298	247	282	280
	前年度対比		-32	-11	-76	25	5	-7	-43	27	-22	-51	35	-2
	R3.3対比					25	30	23	-20	7	-15	-66	-31	-33
小計	卒業生数	2,192	2,079	1,966	1,827	1,879	1,927	1,737	1,768	1,723	1,737	1,598	1,563	1,612
	前年度対比		-113	-113	-139	52	48	-190	31	-45	14	-139	-85	49
	R3.3対比					52	100	-90	-59	-104	-90	-229	-264	-215
県内合計	卒業生数	17,458	16,811	16,489	15,777	16,212	16,046	15,871	15,549	15,405	15,220	14,700	14,343	14,077
	前年度対比		-647	-322	-712	435	-166	-175	-322	-144	-185	-520	-357	-266
	R3.3対比					435	269	94	-228	-372	-557	-1,077	-1,434	-1,700

伊勢市内高校 (県立全日)	学級数(募集)	28	26	26	24	24	24	24	24	24	24	24	24	24
	欠員	12	2	15	3	—	—	—	—	—	—	—	—	—
伊勢以外高校 (県立全日)	学級数(募集)	10	10	8	8	8	8	8	8	8	8	8	8	8
	欠員	79	84	77	117	—	—	—	—	—	—	—	—	—
伊勢地区高校 (県立全日)	学級数(募集)	38	36	34	32	32	32	32	32	32	32	32	32	32
	欠員	91	86	92	120	—	—	—	—	—	—	—	—	—
県内(県立全日)	学級数(募集)	306	293	285	271	274	274	274	274	274	274	274	274	274
	欠員	279	192	339	325	—	—	—	—	—	—	—	—	—

(私立、高専入学者の状況)

皇學館	募集	340	320	320	315	315	315	315	315	315	315	315	315	315
	入学者数	400	336	378	323	—	—	—	—	—	—	—	—	—
伊勢学園	募集	230	220	220	220	230	230	230	230	230	230	230	230	230
	入学者数	221	243	245	283	—	—	—	—	—	—	—	—	—
鳥羽商船	募集	120	120	120	120	120	120	120	120	120	120	120	120	120
	入学者数	118	122	126	128	—	—	—	—	—	—	—	—	—
3校の欠員数(合計)		-49	-41	-89	-79	—	—	—	—	—	—	—	—	—

(参考)

三重	募集	540	530	530	530	540	540	540	540	540	540	540	540	540
	入学者数	568	591	624	548	—	—	—	—	—	—	—	—	—

※令和4年度募集は8月下旬公表予定

※欠員の(-)は、定員を超過した入学者数を示す。

# 伊勢志摩地域県立高等学校 学級数の推移

## 資料7

学校名	学科	H15年	H19年	H20年	H21年	H22年	H23年	H24年	H25年	H26年	H27年	H28年	H29年	H30年	H31年	R2年	R3年	R4年
宇治山田	普通	8	8	8	7	7	7	7	7	7	6	6	6	6	6	6	5	5
	自然科学コース(～H16)	1																
	計	9	8	8	7	7	7	7	7	7	6	6	6	6	6	6	5	5
伊勢	普通	7	7	7	7	7	7	7	7	7	7	7	7	7	6	6	6	6
	国際科学コース	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
伊勢工業	計	8	8	8	8	8	8	8	8	8	8	8	8	8	7	7	7	7
	機械	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2
	電気	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2
宇治山田商	工業化学(～H17)	1																
	建築	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
	計	6	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	4	4	4	4
明野	商業	5	4	4	4	4	3	4	3	3	3	3	3	3	3	3	2	2
	情報処理	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
	国際	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
南伊勢	計	7	6	6	6	6	5	6	5	5	5	5	5	5	5	5	4	4
	生産技術(生産科学H27～)	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
	食品科学	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
鳥羽	経済(流通科学H27～H30)	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
	生活教養	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
	福祉	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
志摩	計	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	4	4	4	4
	普通(～H16)	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
	総合学科(H17～)	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
水産	計	6	4	4	4	4	4	4	4	3	3	3	2	2	2	2	2	2
	普通	4	3	3	2	3	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2
	国際コース	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
度会	普通	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
	海洋	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
	水産製造・増殖	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
南島南勢	機関	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
	海洋・機関	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
	水産資源	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
南勢	計	4	3	3	3	3	3	3	3	3	2	2	2	2	2	2	2	2
	普通	3	3	3	3	3	3	3	3	3	2	2	2	2	2	2	2	2
	国際コース	1																
度会	普通	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2
	普通	1	2	2	2	2	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
	普通	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2
鳥羽	計	5	4	4	4	4	3	3	3	3	3	3	3	3	3	2	2	2
	普通(～H16)	6	4	4	4	4	4	4	4	3	3	3	2	2	2	2	2	2
	総合学科(H17～)	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
志摩	普通	4	3	3	2	3	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2
	普通	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
	国際コース	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
水産	計	5	4	4	3	4	3	3	3	3	3	3	3	3	3	2	2	2
	普通(～H16)	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
	海洋	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
度会	水産製造・増殖	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
	機関	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
	海洋・機関	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
南島南勢	水産資源	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
	計	4	3	3	3	3	3	3	3	3	2	2	2	2	2	2	2	2
	普通	3	3	3	3	3	3	3	3	3	2	2	2	2	2	2	2	2
度会	普通	3009	2675	2695	2704	2704	2508	2558	2452	2398	2319	2277	2263	2192	2079	1966	1827	1879
	前年度対比	—	-102	20	149	50	-196	50	-106	-54	-79	-42	-14	-71	-113	-113	-139	52
	クラス数	55	47	47	47	44	43	44	42	42	40	39	39	38	36	34	32	32
定員	2185	1865	1865	1865	1745	1705	1785	1745	1665	1600	1560	1560	1520	1440	1360	1280	1280	

## 伊勢志摩地域の高校(全日制)の入学定員と入学者数・欠員数の推移

教育政策課

学校名	平成29年度			平成30年度			平成31(令和元)年度			令和2年度			令和3年度		
	入学定員	入学者数	欠員数	入学定員	入学者数	欠員数	入学定員	入学者数	欠員数	入学定員	入学者数	欠員数	入学定員	入学者数	欠員数
明野	200	185	15	200	189	11	160	159	1	160	150	10	160	160	0
宇治山田	240	240	0	240	241	(1)	240	240	0	240	240	0	200	200	0
伊勢	320	320	0	320	320	0	280	280	0	280	280	0	280	281	(1)
宇治山田商業	200	200	0	200	200	0	200	200	0	200	199	1	160	157	3
伊勢工業	200	200	0	160	159	1	160	159	1	160	156	4	160	160	0
南伊勢	度会校舎	80	67	13	80	43	37	80	70	10	80	36	30	80	38
	南勢校舎	40	5	35	40	21	19	40	5	35		14		7	
鳥羽	80	77	3	80	66	14	80	64	16	80	59	21	80	46	34
志摩	120	109	11	120	111	9	120	107	13	80	77	3	80	51	29
水産	80	80	0	80	80	0	80	70	10	80	57	23	80	61	19
県立高校合計	1,560	1,483	77	1,520	1,430	91	1,440	1,354	86	1,360	1,268	92	1,280	1,161	120
皇學館	340	349	-9	340	400	-60	320	336	-16	320	378	-58	315	323	-8
伊勢学園	230	248	-18	230	221	9	220	243	-23	220	245	-25	220	283	-63
私立高校合計	570	597	-27	570	621	-51	540	579	-39	540	623	-83	535	606	-71

※県立高校の欠員欄に( )で示した数字は、追検査で合格があったために入学者数が入学定員を上回っている人数を表しています。

※私立高校の欠員欄のマイナス(-)は、入学定員を超過した入学者数を示します。

# 市町別の中学校卒業生進学先の推移

資料 9

## 伊勢市の状況

%は、各市町における中学校卒業生に対する進学者の割合を表す

卒業年度	卒業生数	全日制 高校・ 高専 進学 者数	県立					私立		伊勢市内高校		鳥羽	商船	志摩	水産	南伊勢		伊勢市以外	管外	その他		
			山田	伊勢	伊工	山商	明野	皇學	伊学	度会	南勢											
2年度	1057	1008	88	170	91	82	82	167	127	27.8%	807	76.3%	15	27	2	1	22	0	67	6.3%	133	50
元年度	1087	1014	104	179	94	80	66	181	119	27.6%	823	75.7%	18	34	2	4	17	0	75	6.9%	116	73
30年度	1170	1108	112	172	89	82	81	163	124	24.5%	823	70.3%	27	33	5	5	28	0	98	8.4%	187	62
29年度	1196	1117	116	194	95	88	92	185	109	24.6%	879	73.5%	21	23	2	4	23	0	73	6.1%	165	79
28年度	1215	1156	110	200	120	94	79	152	129	23.1%	884	72.8%	35	35	1	0	28	0	99	8.1%	173	59

## 鳥羽市の状況

卒業年度	卒業生数	全日制 高校・ 高専 進学 者数	県立					私立		伊勢市内高校		鳥羽		商船	志摩	水産	南伊勢		管外	その他	
			山田	伊勢	伊工	山商	明野	皇學	伊学	度会	南勢										
2年度	149	142	18	16	13	10	20	18	15	22.1%	110	73.8%	14	9.4%	6	0	2	0	0	10	7
元年度	132	129	19	11	5	11	11	14	4	13.6%	75	56.8%	18	13.6%	10	1	3	0	0	22	3
30年度	140	135	21	14	11	10	14	19	7	18.6%	96	68.6%	9	6.4%	10	10	6	0	0	4	5
29年度	181	170	13	12	8	23	20	21	7	15.5%	104	57.5%	25	13.8%	8	6	7	0	0	20	11
28年度	180	173	16	18	11	16	27	19	8	15.0%	115	63.9%	23	12.8%	9	7	4	0	0	15	7

## 志摩市の状況

卒業年度	卒業生数	全日制 高校・ 高専 進学 者数	県立					私立		伊勢市内高校		鳥羽	商船	志摩		水産		南伊勢		管外	その他	
			山田	伊勢	伊工	山商	明野	皇學	伊学	度会	南勢											
2年度	313	291	26	45	21	22	12	33	10	13.7%	169	54.0%	0	17	47	15.0%	37	11.8%	0	0	21	22
元年度	389	372	38	51	18	29	19	52	24	19.5%	231	59.4%	3	13	72	18.5%	40	10.3%	0	0	13	17
30年度	400	384	41	39	23	37	11	36	10	11.5%	197	49.3%	4	13	90	22.5%	48	12.0%	0	0	32	16
29年度	432	418	40	49	16	34	20	45	8	12.3%	212	49.1%	0	21	98	22.7%	54	12.5%	0	1	32	14
28年度	449	434	49	43	16	39	17	49	8	12.7%	221	49.2%	4	14	99	22.0%	67	14.9%	0	0	29	15

## 玉城町の状況

卒業年度	卒業生数	全日制 高校・ 高専 進学 者数	県立					私立		伊勢市内高校		鳥羽	商船	志摩	水産	南伊勢		伊勢市以外	管外	その他		
			山田	伊勢	伊工	山商	明野	皇學	伊学	度会	南勢											
2年度	145	139	10	16	12	8	13	7	11	12.4%	77	53.1%	3	3	0	0	7	0	13	9.0%	49	6
元年度	178	167	12	14	11	14	13	20	12	18.0%	96	53.9%	2	5	0	0	7	1	15	8.4%	56	11
30年度	158	150	14	12	11	9	14	11	16	17.1%	87	55.1%	3	2	0	0	18	0	23	14.6%	40	8
29年度	163	156	22	23	7	9	9	13	13	16.0%	96	58.9%	0	5	0	0	10	0	15	9.2%	45	7
28年度	177	172	14	15	20	5	10	14	20	19.2%	98	55.4%	0	4	0	0	16	0	20	11.3%	54	5

## 度会町の状況

卒業年度	卒業生数	全日制 高校・ 高専 進学 者数	県立					私立		伊勢市内高校		鳥羽	商船	志摩	水産	南伊勢		管外	その他		
			山田	伊勢	伊工	山商	明野	皇學	伊学	度会校舎	南勢										
2年度	55	49	2	9	6	5	0	4	0	7.3%	26	47.3%	0	5	0	0	8	14.5%	0	10	6
元年度	70	65	4	8	5	10	3	4	5	12.9%	39	55.7%	0	1	0	0	9	12.9%	0	16	5
30年度	86	85	6	8	8	9	6	5	5	11.6%	47	54.7%	0	2	0	0	21	24.4%	0	15	1
29年度	79	76	8	7	9	6	6	11	1	15.2%	48	60.8%	0	5	0	0	6	7.6%	0	17	3
28年度	77	76	1	7	7	8	7	5	3	10.4%	38	49.4%	0	0	0	0	19	24.7%	0	19	1

## 南伊勢町の状況

卒業年度	卒業生数	全日制 高校・ 高専 進学 者数	県立					私立		伊勢市内高校		鳥羽	商船	志摩	水産	南伊勢		管外	その他		
			山田	伊勢	伊工	山商	明野	皇學	伊学	度会	南勢校舎										
2年度	59	58	7	4	3	6	2	6	9	25.4%	37	62.7%	0	0	2	1	1	7	11.9%	10	1
元年度	51	51	7	3	5	8	1	6	5	21.6%	35	68.6%	0	0	1	0	0	13	25.5%	2	0
30年度	64	62	5	7	5	9	3	8	4	18.8%	41	64.1%	0	1	2	2	2	4	6.3%	10	2
29年度	79	75	7	10	5	7	1	5	3	10.1%	38	48.1%	0	1	5	2	2	20	25.3%	7	4
28年度	89	88	11	15	9	6	6	15	4	21.3%	66	74.2%	0	0	0	1	2	5	5.6%	14	1

\* 管外とは伊勢志摩地域の全日制の県立（10校）と私立（2校）と高専（1校）以外の高校・高専への進学者数  
その他とは特別支援・定時制・通信制・各種学校への進学及び就職等の数

## 令和3年度の協議について

## 1 協議の進め方

少子化の急激な進行とともに、予測することが困難であるほど社会情勢が大きく変化する中で、子どもたちを取り巻く教育的課題はより複雑化・多様化しています。さらに昨年来のコロナ禍により、学校のあり方や教育そのものの意義も問われている状況です。そのような中、これからの時代を生きていく高校生にどのような力を育み、本県の県立高校でどのような教育を進めるべきかなど、これからの三重の高校教育のあり方について検討していく必要があります。

こうした本県の県立高校の将来像については、「三重県教育改革推進会議」を中心に議論・整理していくとともに、既存の高校教育の枠にとらわれない幅広で多様な観点・角度から調査し考察を加えるため、昨年度より「県立高等学校みらいのあり方検討委員会」を設置して、検討を重ねてまいりました。今年度は次期「県立高等学校活性化計画」（令和4年度から5年間、以下「次期計画」）の策定に向けて具体的な審議を進めています。

各地域（伊勢志摩・伊賀・紀南）に設置した高等学校活性化推進協議会においては、これまで長年にわたり、特に少子化への対応等を中心に各地域の現状認識を共有しつつ、地域特有の課題の解決に向けて協議を重ねてきました。昨年度伊賀地域においては、伊賀北部において令和8年度末までに110人程度の減少が見込まれる中、子どもたちの進路希望や学習ニーズをふまえながら、学習環境をよりよくするため、望ましい学習内容、規模と配置について、その方向性を「協議のまとめ」としました。紀南地域においては、令和7年度に地域の県立高校2校で5学級程度になることをふまえ、これからの地域の高校生に育みたい力や今後の地域の高校の配置や学びのあり方等について協議しました。

令和3年度の伊勢志摩地域の協議会においては、次期計画の策定を見すえ、昨年度から高校生に育みたい力や今後の地域の高校のあり方に関する協議を引継ぎ、4校5校舎の学校別協議会で行われた活性化の総括的な検証をふまえながら、これからの伊勢志摩地域において、子どもたちの学習環境をよりよくするため、望ましい学習内容や規模と配置等について協議していきます。

## 2 現状と課題

- (1) 伊勢志摩地域の中学校卒業生数は、現中学3年生に比べて、令和6年度入学生（現中1）で1学年あたり約140人、令和10年度入学生（現小3）で約280人の減少が見込まれています。
- (2) 現計画では、地方創生・地域活性化の視点や通学にかかる負担等の観点から、「県立高等学校活性化計画（平成29年3月）」に基づき、学校別に活性化協議会を設置して、鳥羽・志摩・度会各地域の小規模校（4校5校舎）の活性化に取り組んできました。現計画最終年度の令和3年度には、学校別協議会において、これまでの活性化取組の総括的な検証を行い、各地域協議会で共有しながら、次期計画の策定を進めてま

います。

- (3) 鳥羽・志摩・度会各地域の高校では、すでに望ましい学級規模を下回る1学年2学級以下となっていますが、慢性的に欠員を生じて、さらに増加する傾向があり、今後の中学校卒業生数の減少を見据えると、令和6年度と令和10年度に向けて、さらなる学級減や学校のあり方等の検討が必要です。
- (4) 伊勢市内の高校も学級減が進んでおり、特に専門学科設置校は、令和3年度には3校すべてが1学年4学級規模となりました。令和6年度以降の当地域の中学校卒業生数の減少を勘案すると、1学年4学級規模が維持できなくなることが想定されるなど、鳥羽・志摩・度会各地域の小規模校のあり方と含めて、伊勢志摩地域全体で望ましい学びや高校の規模・配置を検討する必要があります。

### 3 今年度の協議

今年度策定の次期計画に向けて、教育に関する国の動向や伊勢志摩地域の県立高校を取り巻く現状や課題をふまえながら、子どもたちの学習環境をよりよくするため、これからの当地域において望ましい学習内容、規模と配置等について協議していきます。

- 第1回協議会：8月5日（木）
  - ・小規模校活性化の総括的な検証と伊勢志摩地域の県立高等学校の今後のあり方について
  - ・令和3年度の地域の県立高等学校のPR活動について
  - ・その他
- 第2回協議会：8月27日（金）
  - ・伊勢志摩地域の県立高等学校の今後のあり方について
  - ・その他
- 第3回協議会：10月末
  - ・次期活性化計画の骨子案と県立高等学校の今後のあり方について
  - ・その他
- 第4回協議会：2月
  - ・伊勢志摩地域の県立高等学校の今後のあり方
  - ・今年度の「協議のまとめ」に向けて
  - ・その他
- 第5回協議会：3月
  - ・今年度の「協議のまとめ」について
  - ・その他

※鳥羽・志摩・度会地域検討ワーキング会議、専門学科検討ワーキング会議は、引き続き休会とし、必要が生じた際に再開することとする。



# 令和10年度を見すえた伊勢志摩地域の県立高等学校（全日制）の配置について

令和4年度（次期活性化計画1年目）  
伊勢志摩地域の中学校卒業生数  
32学級  
1,879人（現中3）

令和6年度（次期活性化計画3年目）  
伊勢志摩地域の中学校卒業生数  
27~29学級  
1,737人（現中1）

令和10年度  
伊勢志摩地域の中学校卒業生数  
24~26学級  
1,598人（現小3）

**24学級**

宇治山田高校	普通科 5学級
伊勢高校	普通科 7学級
伊勢工業高校	専門学科 4学級
宇治山田商業高校	専門学科 4学級
明野高校	専門学科 4学級

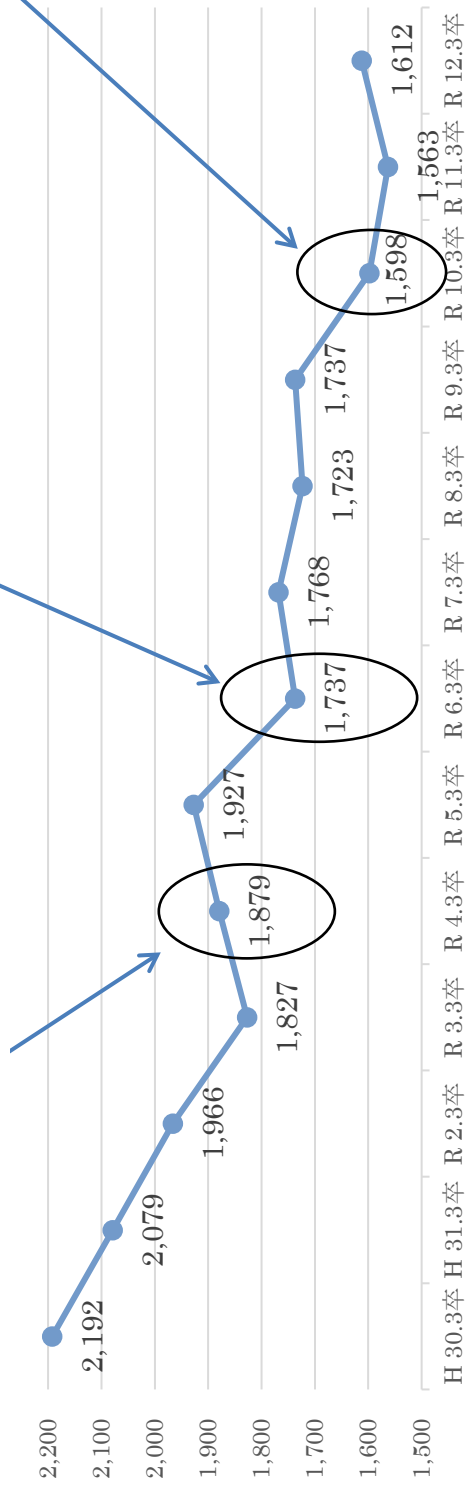
**8学級**  
学校別協議会  
設置校

南伊勢高校	普通科 2学級
南勢校舎	度会校舎
鳥羽高校	総合学科 2学級
志摩高校	普通科 2学級
水産高校	専門学科 2学級

宇治山田高校	普通科	大学進学をめざす普通科への志願者は多く、多様な科目設置に対応するためには、一定の規模が必要
伊勢高校	普通科	
伊勢工業高校	専門学科	3校とも1学年4学級規模となり、これ以上の小規模化は単独での専門教育の維持が困難
宇治山田商業高校	専門学科	
明野高校	専門学科	各地域と一体となった活性化に取り組んでいるが、生徒募集に関しては大幅な欠員が発生
南伊勢高校	普通科	
南勢校舎	度会校舎	現在の規模を維持するためには、全県下から志願者が集う状況が必要
鳥羽高校	総合学科	
志摩高校	普通科	
水産高校	専門学科	

**伊勢志摩地域の県立高校（全日制）**

伊勢志摩地域の中学校卒業生数（令和3年5月1日調べ、令和3年3月卒以降は予測値）



**学科の割合（令和3年度）**

普通科	50.0%
専門学科	43.8%
総合学科	6.3%

※伊勢志摩地域における県立高校と私立高校の募集定員の比率、中学校卒業生が市町を越えて高校進学する比率が、現在と大きく変わらない場合の予測に基づく。

※地域における募集定員の普通科・専門学科・総合学科の比率、伊勢市内の高校と鳥羽・志摩・度会地域の高校の比率が、現在と大きく変わらない場合の予測に基づく。

※中学校卒業生数、令和3年5月1日時点の教育政策課による予測数値

## 伊勢志摩地域の高等学校等（R3 年度）の学科・コースについて

伊勢志摩地域の県立全日制高校は、伊勢市内には普通科と、農業、工業、商業等の専門学科が設置されており、鳥羽・志摩・度会地域には小規模校の普通科、総合学科、専門学科の4校5校舎があります。また、私立普通科全日制、私立通信制、国立高等専門学校、県立昼間定時制等の学校も設置されており、地域の中学生の学びの選択肢は多く存在している状況です。

## 1. 全日制課程

**県立** (1280 名)

- ・宇治山田高等学校（伊勢市） 普通科：200 名
- ・伊勢高等学校（伊勢市） 普通科：240 名、普通科国際科学コース：40 名
- ・伊勢工業高等学校（伊勢市） 機械科：80 名、電気科：40 名、建築科 40 名
- ・宇治山田商業高等学校（伊勢市） 商業科：80 名、情報処理科 40 名  
国際科：40 名
- ・明野高等学校（伊勢市） 生産科学科：40 名、生活教養科 40 名  
食品科学科：40 名、福祉科：40 名
- ・南伊勢高等学校南勢校舎（南伊勢町） 普通科：80 名（度会校舎と合わせた定員）
- ・南伊勢高等学校度会校舎（度会町） 普通科：80 名（南勢校舎と合わせた定員）
- ・鳥羽高等学校（鳥羽市） 総合学科：80 名  
【系列】観光ビジネス、スポーツ健康、総合福祉、文理進学
- ・志摩高等学校（志摩市） 普通科：80 名
- ・水産高等学校（志摩市） 海洋・機関科 40 名、水産資源科 40 名

**私立** (535 名)

- ・皇学館高等学校（伊勢市）  
普通科：315 名 進学コース・特別進学コース
- ・伊勢学園高等学校（伊勢市）  
普通科：220 名 特別進学コース  
選択コース（情報ビジネス、生活デザイン、進学）  
看護医療コース

## 2. 定時制課程

**県立**

- ・伊勢まなび高等学校（伊勢市）  
普通科：午前の部 40 名、午後の部 40 名、ものづくり工学科：40 名（夜間）

## 3. 通信制課程

**私立**

- ・英心高等学校（伊勢市） 普通科：100 名（全日型、水曜、土曜の各コース）
- ・代々木高等学校（志摩市） 普通科：800 名（通学コース、通信一般コース等）

## 4. 高等専門学校

**国立**

- ・鳥羽商船高等専門学校（鳥羽市）  
商船学科 40 名、情報機械システム工学科 80 名

## 令和3年度の県立高等学校のPR活動について

伊勢志摩地域の県立高校の魅力を広く発信する方法の一つとして、高校の合同説明会を開催することについては、県内他地域での取組を参考にしながら平成27年度ごろから当協議会で議論されてきました。この合同説明会は、地域全体の県立高校のPRの場として、特に伊勢市内で説明会等の機会が少ない鳥羽志摩度会地域の小規模校が、地域の小中学生や保護者等に多様な進路選択の機会を提供するものとして、平成29年度から実施してきました。

### ○「進学フェスタ」過去3回の開催日時、内容、来場者等

#### 第1回伊勢志摩地域県立高等学校進学フェスタ

平成29年6月10日（土）13:00開会、会場：ハートプラザみその、来場者（受付）：365人  
内容：講演会（安河内哲也氏）、ステージ発表、ブースでの進路相談等

#### 第2回伊勢志摩地域県立高等学校進学フェスタ

平成30年6月9日（土）12:30開会、会場：ハートプラザみその、来場者（受付）：234人  
内容：講演会（浦上大輔氏）、ステージ発表、ブースでの進路相談、学習成果の発表等

#### 第3回伊勢志摩地域県立高等学校進学フェスタ

令和元年11月17日（日）13:00開会、会場：いせトピア、来場者（受付）：220人  
内容：ステージ発表、ブースでの進路相談等

### ○ 各県立高校の紹介チラシの配付

令和2年度は、新型コロナウイルスの感染拡大による学校の休校措置や非常事態宣言等を考慮して、地域で不特定多数が集まるイベントである進学フェスタは開催を中止して各県立高校のWebページを紹介するチラシを市町教育委員会の協力のもと、地域の中学生・保護者に配付した。

### ○ 今年度の県立高校魅力発信について

新型コロナウイルスの感染症拡大防止の対策が継続している状況を考慮して、今年度も地域で不特定多数が集まるイベントである進学フェスタは開催を中止とし、昨年度と同様に各県立高校のWebページを紹介するチラシ（次ページ）を作成し、地域の市町教育委員会の協力のもと、地域の中学生に配付することとしてはどうか。

また、配付にあたっては市町教委と相談のうえ、中学生の情報端末にデータを送信するなどの対応も進めていきたい。

中学生とその保護者のみなさんへ

# 伊勢志摩地域 県立高校紹介

伊勢志摩地域の県立高校は魅力がいっぱい！  
各県立高校ホームページへは 裏面のQRコード からアクセスを！  
きっと、学びたい学校がそこにある！

県立高校案内は「レインボーメッセージ」をご覧ください。

<http://www.mie-c.ed.jp/rainbow/index.html>



伊勢志摩地域の県立高校

県立高校進学後の教育費については各種支援制度があります。詳しくはこちら

<https://www.pref.mie.lg.jp/KYOZAIMU/HP/singakusien/index.htm>



# 気になる県立高校のWebページを見てみよう！

学校名をクリック！

**宇治山田高等学校** (全日制) 伊勢市浦口3丁目13-1



設置学科 募集定員  
普通科 200人

**伊勢高等学校** (全日制) 伊勢市神田久志本町1703-1



設置学科 募集定員  
普通科 240人  
普通科 (国際科学コース) 40人

**伊勢工業高等学校** (全日制) 伊勢市神久2丁目7-18



設置学科 募集定員  
機械科 80人  
電気科 40人、建築科 40人

**宇治山田商業高等学校** (全日制) 伊勢市黒瀬町1193



設置学科 募集定員  
商業科 80人、情報処理科 40人  
国際科 40人

**明野高等学校** (全日制) 伊勢市小俣町明野1481



設置学科 募集定員  
生産科学科 40人、生活教養科 40人  
食品科学科 40人、福祉科 40人

**南伊勢高等学校南勢校舎** (全日制) 南伊勢町船越2926-1



設置学科 募集定員  
普通科 80人  
(度会校舎と南勢校舎をあわせた定員)

**南伊勢高等学校度会校舎** (全日制) 度会町大野木2831



設置学科 募集定員  
普通科 80人  
(度会校舎と南勢校舎をあわせた定員)

**鳥羽高等学校** (全日制) 鳥羽市安楽島町1459



設置学科 募集定員  
総合学科 80人

**志摩高等学校** (全日制) 志摩市磯部町恵利原1308



設置学科 募集定員  
普通科 80人

**水産高等学校** (全日制) 志摩市志摩町和具2578



設置学科 募集定員  
海洋・機関科 40人  
水産資源科 40人

**伊勢まなび高等学校** (定時制) 伊勢市神田久志本町1560



設置学科 募集定員  
普通科 (午前の部) 40人  
普通科 (午後の部) 40人  
ものづくり工学科 (夜間) 40人

伊勢志摩地域の県立特別支援学校には  
「玉城わかば学園」(玉城町)と  
「度会特別支援学校」(度会町)に  
高等部があります。

